

陸上運動部部便り

2009年6月号

関東インカレ・国公立戦

目次

1 関東インカレ	1
1.1 監督の言葉	1
1.2 主将の言葉	2
1.3 女子主将の言葉	2
1.4 試合経過	2
1.5 試合結果	11
2 国公立戦	14
2.1 監督の言葉	14
2.2 主将の言葉	15
2.3 女子主将の言葉	15
2.4 試合経過	15
2.5 試合結果	25
3 2009年度部内5傑 2009.5.31	29
4 自己記録更新者一覧 2009.4.6~5.31	30
5 主務より	31
5.1 応援OB・OG紹介	31
5.2 行事予定	32
5.3 連絡先(慶甲等)	32

1 関東インカレ

1.1 監督の言葉

監督 寺田秋夫

学部男子 良く頑張ったが10点は10点

第88回関東学生対校陸上競技大会は5月16,17,23,24の4日間、国立競技場で行われました。

入学時から選手常連であった世代が今春卒業し、学部男子は個人種目では20人に満たない寂しいエントリーとなりました。それでも、エン

トリーした選手は小粒でもしっかり力を出せるメンバーであり、院生が得点争いでは別勘定となることも併せて、ここ数年達していない2桁得点を目指しました。結果は丁度10点で辛うじてのノルマ達成で5年ぶりの2桁得点獲得でしたが、対校戦という観点では10点では話になりません。本番で自己記録相当以上の結果を出した選手が多く、今回応援に回った多くの部員にも「やればできる」という感覚は持ってもらえたと思います。来年も5月の中旬に関東インカレがあることは今の時点でわかっており、標準記録も、今と大きく変わることもないので、やはり、関東インカレで点を取ることを目指して、日々過ごせれば、他校との定期戦は十分に戦えるようになると思いますので、もう数段競技に対する視点を上げる必要があります。

女子はマイルリレーにエントリーでき、本人の努力と指導者にも恵まれての楠木(4年)のハンマー投げ、スーパールーキーの久保木(100mH)のエントリーと話題性のある編成となりました。対校結果はほろ苦いものとなってしまいましたが、今の4年生の入学時の状態から思うと、関東インカレに女子パートとして本気で出場を目指してそれを実現できたのは、素晴らしい事だと思います。新入生の加入で層も厚くなった今年は、今回の経験を自信にして、常に対校戦は勝つために出るものだという強い気持ちを持って試合に当たってくれるようになるものと期待しています。

今年から新設の院生の部は3点制ですので、当初はフィールドでは一部校の院同士でつぶし合い、中長に強い本学が有利かと思っていたところ、院生の部は昇格もなくモチベーションが上がらなかったのか国土館・国武大といった、例年の2部校荒しの院がメンバーをそろえず、山梨

大院がフィールドで稼ぎまくり大差の優勝を飾り、本学は4人のエントリーでしたが、中長で3種目制覇を果たし、2位筑波院に2点差の12点獲得の3位でした。少々運営にも課題が見受けられ、来年は得点やレースの方法などの見直しがありそうですが、理系の多くは院に行く時勢ですので、来年は一人でも多くエントリーを増やし、優勝を目指せるようにしたいと思います。

今回のインカレは、個々の選手は、持ち記録等からすると悪くない結果を残しましたが、七大戦・京大戦を考えると、今回選手出場を果たせなかった部員の奮起が不可欠です。来週は国公立戦ですが、例年ここで数名の化ける選手が現れます、今年も大化けの選手が出てくれることを期待しています。今回の昇格校は、バランスの良い平成国大と上武大、降格校は不祥事で出場辞退であった日体大と、その日体大が出られなかったことで他の下位校がフィールド・短距離で点を築き上げる中、長距離しか得点力のなかった駒沢大です。

来年は特に短距離・跳躍は日体大が軒並点を取り、実質5点制の試合になるとの覚悟をもって研鑽していく必要があります、今後とも御指導御鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

1.2 主将の言葉

主将 廣瀬 彬

10点という結果。これをどうとらえるか。ここ数年一桁得点におわっていたのに比べると良かったと言えますが、1部で戦っていた時と比べると惨敗と言えるでしょう。また出場人数がここ数年では最少であったことを考えると、チームとして楽観視できる結果ではありません。結果は結果として、真摯に受け止めねばなりません、一番大事なことは今回の関東インカレから学んだことを今後にしっかり生かすことです。それを積み重ねていくことでしか、強くなっていくことはできません。今後、主幹校として迎える七大戦、京大戦、さらには9月に行われる全日本インカレと大事な試合が控えています。部員一人一人が少しでも上へという気持ちを持つことが勝利につながっていきます。そういった雰囲気をしっかり作っていき、部員一同ひとつ

になって頑張っていきますので、これからも変わらぬご支援、ご指導よろしくお願い致します。

1.3 女子主将の言葉

女子主将 日下桃子

関東インカレにおいては、女子はここ数年、標準記録のなかった4×100mRのみの出場でしたが、本大会では100mH、ハンマー投の二つの個人種目と、4×400mRに出場することができました。しかしながら他大学には全く及ばず厳しい結果となりました。大学院の部が別になったものの、男子のようにレベルごとで一部と二部とがわかれていない中、標準を切ることも、出場して活躍することも難しいということを改めて感じさせられる結果でした。ですが、今年は女子の新入部員が8人も入ったこともあり、来年以降も高い目標を掲げ、進歩を続けていってほしいことを期待します。100mH15"21の記録を持つ期待のルーキー久保木(1年)と4×400mRではきっと来年も出場できると思われますし、後輩達には頑張っていってほしいと思います。そのためにも、これからの対校戦で、着実に皆が結果を残していけるよう、女子主将として尽力していく所存です。これからもご指導とご声援のほどよろしくお願いいたします。

1.4 試合経過

トラック 1日目 (5/16)

10:20 男子 3部 400m 決勝

2レーンに小福田(M1)の出場。関カレ前の試合でも49秒台の記録を残しており、関カレの東大チームの最初の決勝種目として、ベストの更新、3位以内でチームに勢いを与えてほしいところである。当日は曇り空でここ数日続いていた暑さがなく肌寒いぐらいである。外側のレーンの選手が前半から行くタイプなので前半は何とかついていき後半に勝負をかけたところである。スタート。スタート直後からうまくスピードに乗れず、外側のレーンの選手との差がじわじわ広がってしまう。300m付近まで後

方でのレースが続き、厳しいレース展開となってしまう。しかし最後の直線で素晴らしい粘りを見せて前を行く2,3人の選手をつぎつぎととらえてゴール。結果は49"67で惜しくも4位。49"67はセカンドベストとなったのでまずまずの結果であろうが、前半から行けなかったことが悔やまれるレースとなった。今後の課題としては後半での粘りは素晴らしいのもっと前半から全力でいけるような体力をつけてほしい。そうすれば48秒台も期待できるだろう。

11:25 男子2部・3部1500m予選

1組目に石原宏尚(M2)の出場。今年新たに設けられた3部(院生)では、2部の予選と同時に走り、タイムレース決勝で行われた。天候は例年と違い日が照っておらず、涼しいなかのスタートであった。スタートから積極的にいき、先頭から4番手という高位置でのレースの始まりであった。先頭についていき400mの通過は、61"であった。先頭はそのままのペースでいき、次第に石原が落ちてきた。そのままずると順位を下げてしまい、2週目、3週目ともにラップが落ちていき前の集団につくことができず、途中から集団から完全に遅れてしまい一人だけで走る展開になった。一度は10mほど離れたものの、そこから気持ちを切らさずにレースを運ぶことで最後の直線で駿河台大を抜き去り、一つ順位を上げて組としては4'07"30の12着でゴール。予選二組目で走る予定の横国大院が棄権したため、3部1500m出場者は石原一人だけとなり、東大院は3点を獲得した。持ちタイムからすると残念なタイムではあるが、東大院に大きく貢献した。石原は24日のハーフマラソンにも出場予定なので、しっかり疲労を抜き調整し、ハーフマラソンでの走りに期待したい。

12:15 男子2部110mH予選

1組1レーンに酒谷(3年)の出場。酒谷は去年も関カレに出場しており、予選落ちに終わった。今年こそ決勝進出が期待される。号砲が鳴り、勢いよくスタート。ス

タートは決まり、酒谷は集団から1歩抜き出る。しかし3台目辺りだろうか、集団にとらえられ、以後動きが硬くなってしまふ。最後まで粘りを見せるが、徐々に離され6着でフィニッシュ。記録は15"46で、風は-0.7mであった。4組で準決勝進出は3着+4、だれもが予選敗退を覚悟するが、なんとか4番目で拾われ、準決勝出場を決めた。酒谷の関カレへの思いが通じたのだろうか、予選での不甲斐ない走りを取り返す場が与えられた。準決勝の走りには大いに期待される。

12:55 女子1部100mH予選

1組1レーンに久保木(1年)の出場。久保木は自己ベスト15"0の好記録をもっており結果が期待できるものの、一方で受験勉強に伴う走力の低下も懸念されるところである。雨でこそなかったものの、向かい風という良いとはいえないコンディションの中スタートのピストルが鳴り響いた。1レーンの久保木もなかなかの飛び出しを見せたが、やはり受験期のブランクからか走りに精彩を欠き、他の走者に差を広げられていく。中盤以降もハードル間のストライドを思うように合わせることができず、苦しい展開となる。結局最後まで挽回はかなわず、久保木は17"00の組7着でフィニッシュ。この時風は-1.1mであった。今回こそ残念な結果になってしまったものの、1年生のこの時期であることを考えるとまだまだよいタイムが狙えることが期待される。これからじっくり練習を重ねて本来の自分の走りを取り戻し、より速い記録を目指してほしい。

14:50 男子2部110mH準決勝

2組2レーンに酒谷(3年)の出場。予選をギリギリで通過してでの準決勝である。しかし酒谷は調子は悪くはなく、力を出し切れれば決勝進出は決して夢ではない。組には去年のインターハイ2位の選手も並ぶ。こうした実力者にどこまで食らいつけるかが勝負のカギだろう。雲が覆い雨でも降りそうな肌寒い気候である。各選手がスター

トラインにつき、号砲が鳴る。酒谷のスタートも悪くはないのだろうが周りも速く、予選のような飛び出しは見られない。実力者がそろろう中、中盤までは食い下がるも、8台目のハードルを引っかけバランスを崩した所で勝負あり。8着でフィニッシュし、記録は15"53、風は-1.2mであった。自分の走りが出来ず、結果は残念なものであったが、この大舞台での経験は彼を強くするであろう。彼の心はもう全力レヘ向いている。

16:45 男子2部・3部4×100mR 予選

2組4レーンに中嶋(4年)-都井(4年)-増本(3年)-西田(3年)の走順で出場。春日(2年)が怪我のため欠場し、ベストメンバーではない形で試合に臨むこととなった。また、5レーンにはライバルである東学大が欠場し、負けられない試合である。1走中嶋はまずまずのスタートをきると、アウトレーンを走る東学大とほぼ互角のレースを展開し、バトンパスでややつままったものの、2走都井へとつなぐ。都井はのびやかな走りを見せバトンゾーンへ。ここで5レーンを走る東学大がまさかのバトンミスをするが、東大は無事に3走増本へとバトンが渡る。増本は見事なコーナリングを見せる。4走西田とのバトンパスで西田がやや躓き、ひやりとするが、なんとかバトンが渡る。好調な西田は後半の伸びが素晴らしく、42"69の5着でフィニッシュした。42秒台という最低限の目標は達成したが、春日の欠場や、細かなバトンミスがあったことを考えると、今後の活躍に期待したい。

トラック2日目(5/17)

10:30 男子1部・2部1000mW 決勝

北沢(5年)、井上(3年)、早川(3年)の出場。北沢は4回目の出場で経験豊富だが調子が悪く、井上、早川は最近自己ベストを出し勢いがあるが競歩を始めて間もなく、持ちタイム上では他の選手に見劣りしてしまう。やや不安がある中でのレースである。

1部校、2部校ともに同時スタートのため、先頭集団は1000mの通過が3'55"というハイペースで試合は進み、東大勢は早川

が1000mを4'55"で通過、北沢、井上の順でそれに続き、後方から追っていく展開となる。だが、井上は不安のあった歩形に乱れが出てしまい、序盤から警告を出されてしまう。その後もなかなか矯正できず、1600m地点で失格となってしまった。早川は1kmあたり5分弱のペースで試合を進めるが、北沢はやはり調子が上がらず、それについていけない。5000mを早川が24'57"の13番手、北沢が25'21"の15番手で通過し、自分のペースを刻んでレースが進むが、前との差は縮まらない。6000mを通過するあたりから二人ともだんだんとペースダウンし、7000m付近で早川も14番手に後退してしまう。その後も両者とも粘りの歩きを見せるが、苦しい状況を打破できず、早川が51'26"60の14位、北沢が52'26"73の15位でなんとか完歩した。北沢は最後の関東インカレで残念な結果に終わってしまったが、4年間闘ってきた彼の姿は東大の選手に感動を与えた。井上、早川も不本意な結果となってしまったが、両者とも競歩を始めて1年に満たず、記録を伸ばす余地はまだあるので、キャリアを積み、リベンジすることに期待したい。

15:05 男子2部4×400mR 予選

2組8レーンに、増本(3年)-川村(4年)-定金(3年)-坂井(4年)の走順で出場。試合3日前に新戦力の大澤(1年)が故障したため、急遽定金が入ったオーダーとなる。まず1走の増本はいいスタートを切るが、第3コーナーを過ぎたあたりから失速し、他チームに差をつけられる。しかし、ラストの直線では粘りを見せた。混戦であり、5着ほどかという位置でバトンをつないだ。バトンを受け取った川村は、第2コーナーを過ぎるまでに7着に順位を落とす。しかし、バックストレートの後半から、前のチームと激しい競り合いとなる。最後に順位を1つ上げて、6着で定金へバトンパスした。しかし、このバトンパスの前後で少し出遅れ、順位も7着に落とす。しかし、その後は安定した走りで順位を守る。ホームストレート

では、ラストパートで6着との差を縮めた。アンカーの坂井にバトンが渡ると、徐々に前との差が広がっていった。さらに、ラスト150mあたりから後ろのチームがぐんぐんと追いついてくる。しかし、最後は粘りを見せ、8着チームの猛追をかわして3'23"92の7着でフィニッシュ。関東インカレ2部の標準記録である3'23"00にも届かず、悔いの残る結果となった。今回は3、4年生で急遽組んだオーダーだったが、今後の試合では1年生を含めたベストメンバーを考える必要がある。また、国公立戦、七大戦などでは3'23"00の標準記録突破が期待される。

15:40 女子1部 4×400mR 予選

3組2レーンに清水(4年)-日下(4年)-高山(3年)-楠木(4年)のオーダーで出場。この種目の優勝を決勝で都留文大と争うであろう早大、また総合得点で既に頭一つ抜き出ている筑波大を同組に迎え、相手に不足はない。

号砲が鳴る。序盤清水は落ち着いた走りで集団の後方につけるが、バックストレートでの先頭争いが激しく、200mを過ぎた頃には大きく差を開けられてしまう。それでも終盤踏ん張り日下にバトンが渡る。日下はバトンパスから一気に加速しまずは集団に追いつこうという構え。第二曲走路で若干スピードを緩めるが300m以降再加速。それでも前方との差は大きく40m近く離されて3走へ。高山は尻上がりにスピードを上げていく。300mを回った所で前方1人を射程圏内に捉え、詰め寄って楠木に全てを託す。楠木も序盤は安定したペースを守り、200m手前で加速する。しかし、この日ハンマー投げ終了後に日大から駆けつけた疲れもあって後半に伸びがない。このまま4'20"23の7着でフィニッシュした。

ハイレベルな争いに割って入ることができなかったのが残念だが、実に久々に関東ICに出場をツ果たす事のできた女子チーム。大舞台での経験は今後の糧になることは間違いない。超一流の背中を見た悔しさをバネに、今後の活躍に期待したい。

16:35 男子2部・3部 10000m 決勝

依田(D2)の出場。依田はこの種目大学院生唯一の出場であり、上位にどこまで食い込めるかの勝負である。天候は曇りで涼しく走りやすい条件でのスタートとなった。

序盤は集団の最後方につき、上級生らしい落ち着いた走り出しを見せる。集団のまま1000mを通過し、2'53"で通過するが、徐々に順位を上げ、良い位置に着く。依田の後ろがずるずる離されていく中、集団にしっかり付いていく。しかし、3000mを過ぎるくらいから徐々に依田は集団から離されてしまい、一人旅を強いられることになり、厳しい展開。表情もやや苦しそうで、ペースも3'10"台へと落ちていってしまう。しかし、6000mくらいから前方の選手に追いつく粘りを見せ、そのままラストの1000mは3'03"まで上げてフィニッシュ。結果は30'57"22の17位(大学院の部では1位)。実力を発揮できた走りとは言えないながらも、関東インカレ大学院記録保持者となり、今後はますます磨きのかかった走りを期待したい。

トラック3日目(5/23)

10:50 男子2部 800m 予選

2組5レーンに渡邊(3年)の出場。昨年に続き2度目の出場である。昨年は大きな試合特有の長い拘束時間に惑わされ、力を出し切れなかったが、今年はその経験を生かしたい。5月に入ってから練習での調子も上がってきており、力を出し切ることができれば十分に決勝進出が期待できた。

最初の100mは周りのペースが速かったが、渡邊は無理をすることなくリラックスした様子で入り、バックストレートに入った段階では集団の後方に位置していた。1人飛び出した選手がいたが、2位以下の集団はそれを無理に追うことなく200mを通過。渡邊はこの集団の5番手に位置しながらも27"7で通過する。400mまでは大きな動きはなく、400mの通過は56"5。ここから集団のペースは上がり始めるが、渡邊はペースを上げることができない。バックストレートからは徐々に集団の最後尾からも離され

てしまい、そこからはペースを上げるどころか逆に落ちてしまった。結局ラスト200mも切り替えることができず、渡邊は1'59"29で6着でゴール。

今回の最大の敗因は500m地点で集団につけなかったことであろう。持ちタイムから考えると今年も力を出し切れなかった感は否めないが、集団から離れてしまった地点での動きを決勝に進出した選手と比べると力負けという感も受けた。しかし、ここで終わってしまうような選手ではないので、今回のレースの経験を生かして更なる飛躍を期待したい。

12:50 男子2部・3部 400mH 予選

2組6レーンに上松(1年)の出場。53秒台の持ちタイムでA標準突破を果たしており、潜在能力は申し分無い。あとは受験期のブランクが問題となる。高3時の記録を以て関カレに出場した例は近年いくつかあるが、06年の200mに於ける渡辺裕太(22"16と自己記録を更新して予選突破)らの存在がある一方、昨年の拙島一樹(52"00で予選敗退)などの例もありこの大会に限っては明暗がはっきりしている。さて、上松はどうか。

号砲が鳴る。外側の選手主導で序盤が開く中、上松は落ち着いた入りで前方を窺う。爆発力には欠けるがハードルさばきは流石といったところで、安定したスピードを保ち四台目まで難なく通過。しかしここで外側の選手が猛然とスパートすると、焦ったか5台目付近からハードリングがばらつきはじめ、減速と再加速を繰り返す。第4コーナー以降は下位争いに甘んじ、修正できぬまま57"07の7着でフィニッシュ。

ハイレベルな戦いに焦りが出たか。とはいえ、明日の短長系を担う逸材たることに変わりはない。焦らず自分のペースで実力をつけてほしい。

トラック4日目(5/24)

9:00 男子2部・3部 ハーフ決勝

石原(M2)、山田(4年)の出場。両者とも昨年の上尾シティマラソンにおいて好走を見せたが、今季は練習や調整の不足もあっ

て、万全な状態ではなかった。しかも、当日はあいにくの雨で、不安を抱えての出走となった。

出走直後は、石原が先頭集団に立ち、山田も先頭集団に着いていく積極的な走りを見せ、5kmを16分20秒程で通過した。しかし、山田が苦しくなって先頭集団から遅れ、石原も先頭集団からこぼれてしまった。ただ、石原はその後踏ん張りを見せ、1:09:15でゴール。山田は一人旅となって苦しみつつも、1:11:06でゴール。

両者とも、自己ベストには遠い結果となってしまったが、まだシーズンは始まったばかりである。石原は大学院最後、山田は学部最後のシーズンとなるので、箱根駅伝予選会では有終の美にふさわしい快走を期待したい。

13:15 男子2部・3部 5000m 決勝

依田(D2)の出場。2部と同時に行われたこの種目であるが、3部(大学院の部)での出場は中山(横国大院)と2人だけであり、2日目に行われた10000mとの2冠が期待されるとともに、天候は小雨で気温は19.8度と冷涼であり、記録の面でも期待される。また、本学最終種目ということもあり、スタンドでの応援にも力が入る。

依田は二段スタートの外側からのスタート。集団の後方に位置取りし、最初の1000mを2'52で通過。集団は縦長となるが、この段階ではまだ飛び出す選手もいなければ、大きく離れる選手もいない。2000mを過ぎて徐々に集団から落ちていく選手がいる中、依田は1周70前後のペースを維持しまだ集団の中にいる。しかし、3400mを過ぎて集団のペースが上がると依田は集団から徐々に離れてしまい、ペースも落ちてしまう。4000mを11'42"で通過するもペースは上がり、中山(横国大院)に抜かれてしまうが、大きく離れることはない。ラスト1周で中山がペースを上げ、依田もペースを上げるが、追いつくことはできず、3部2位(2部とあわせて25位)の14'45"52でゴール。

この種目で2点を獲得したが、依田の本来の実力からすると少し物足りない結果と

なった。院生にとって次の大きな大会は半年後の箱根駅伝の予選会である。半年後には、一回りも二回りも成長した依田が、昨年に続いて関東学連選抜チームのメンバーとなるだけでなく、本戦出場を果たすことが期待される。

フィールド1日目(5/16)

10:00 男子2部やり投予選A組

谷(4年)の出場。今年のやり投げは出場人数が多いため、予選決勝方式で行われることとなった。通過標準記録は60mであり、突破者が12名未満の場合、記録上位12名が決勝進出となる。谷は実力的にも1投目での無難な予選通過を目指したが、練習投擲で右足をつってしまい、踏み込んだ投げができない。記録は1投目の55m31で1組目で5番目となり、2組目の結果待ちとなった。優勝も狙っていた谷にとって、まさかの展開ではあったが結局10番目で決勝進出となった。

14:00 男子2部三段跳決勝

廣瀬(4年)の出場。学部生と院生が2部と3部に分かれ、入賞ラインはA標準の14m40に下がると見られた。廣瀬は4月下旬に肉離れを起こし、出場が危ぶまれる状況であったが、不安を残しながらも出場にこぎ着けた。壮行会では入賞できなかつたら坊主にし、眉毛を全て剃るという大胆な公約を掲げて臨んだ。絶対に負けられない試合である。廣瀬は1跳目にいきなりA標準に迫る14m38の自己ベストの跳躍を見せた。「80%の力で跳んだ」ことが奏功したようだ。廣瀬はこの記録のまま4位で4跳目以降に進んだ。14m10台の跳躍を見せ、怪我の不安を抱えながらも安定した力を発揮したが、上位との差を詰めることはできず、逆に順位を下げ、結局5位で競技を終えた。目標の入賞を果たし、廣瀬は自分の長髪と眉毛を守ることができた。主将としての貫禄を見せた試合であった。

フィールド2日目(5/17)

10:00 男子2部ハンマー投決勝

寺島(4年)の出場。明け方に降っていた雨は上がったものの、風が強く吹く中で競技が開始された。直前の記録会で自己ベスト(40m77)を出していたが、入賞ラインは46m 辺りになると予想されていてこのままでは入賞は厳しいと思われた。そこで1投目から大幅な記録更新を目指してファールを怖れず勝負をかけていく、しかし1ターン目の入りでハンマーヘッドが地面にぶつかってしまい39m51の記録となった。2投目、速めのスイングからターンに入るがタイミングがずれてしまい振り切りが合わず38m91に終わる。3投目も速めのスイングから入っていくがターンがサークルに収まらずにファールとなった。結果は1投目の記録で18位であった。記録を狙いにいき潰れてしまった結果となったが、勢いがあるのでこれからに期待したい。

13:00 女子1部ハンマー投決勝

楠木(4年)の出場。懸念されていた雨は止んでいたが、強風が吹き荒れる中での試合となった。強豪選手が集う関東インカレだが、この試合に出るためにハンマーを練習してきた楠木にはひるまず自己記録を伸ばすことが期待された。楠木は慣れない日大のサークルの感触にてこずり練習投擲でバランスを崩したが、1投目にはなんとか体勢を立て直し26m08をマークした。2投目には27m05と記録を伸ばしたが今ひとつ思い切りに欠ける投擲であった。同日に4×400mRにも出場する楠木は3投目の試技順を1番に変更してもらっても、そのせいかリズムをくずし、また強風にもあおられ、3投目は24m62に終わった。結局最後まで集中力を高めることができず27m05で17位であった。ファールせずに3投投げきったが、自己ベストに3cm届かず、楠木には悔しい結果となった。今後の対校戦では砲丸投で活躍してほしい。

13:30 男子2部やり投決勝

谷(4年)の出場。走高跳が長引いた関係で1時間遅れでの競技開始となる。さらに

強烈な向かい風が吹きつけ、コンディションはよくなかった。前日につった足が心配された谷は、練習投擲は無理せず無難に終える。その1投目。速い助走から放たれた投擲は60m68を記録。さすがである。しかしその後の投擲では痛めた足の影響からか、踏み込めず、腰が入らない。トップ8には2番手で進むも5投目をおえた段階で3番手であった。6投目。多少力みがみられる助走から勢いよい投げをみせ60mラインを大きく越える。記録は62m59。1位とは21cm、2位とは5cm差で惜しくも3位ではあったが、見事表彰台をゲット。エースとして期待通りの活躍をし、6点を獲得した。しかし、まだまだ本来の投擲ではなく、今後東大記録の更新も含め、さらに期待していきいたいところである。

フィールド3日目(5/23)

10:30 男子2部・3部砲丸投決勝

持永(M2)の出場。午前中だが気温は高く、天候は投擲日和であった。1日目と2日目の十種競技で自己ベストを更新、個々の種目でも自己記録を複数更新と上り調子の持永は、砲丸投で先週をさらに超える投擲を目指す。

持永は1投目から12mラインに近い投擲をし、更なる自己記録更新かと思われたが、勢いが余ってサークル内に踏みとどまることができず、惜しくもファールとなった。3部の選手は全3投しか投げることができないため、2投目では記録を残すために安全な投擲をし11m12であった。3投目で勝負に出るもまたファールとなり、結局11m12の3位であった。

自己記録には及ばなかったものの3位に入賞し、院チームの点数に貢献した。持永にはこれからも混成競技において重要とされる投擲種目で記録を伸ばし、学部生をその背中で引っ張ってほしい。

フィールド4日目(5/24)

9:30 男子2部・3部円盤投決勝

持永(M2)、谷(4年)の出場。小雨が降り、

少し肌寒い中競技は行われた。2人とも前の週にそれぞれ十種競技、やり投に出場しており、残りの力を気兼ねなく円盤にぶつけたいところであった。

十種競技の円盤投で好記録を出している持永は落ち着いた立ち上がりを見せるものの、1投目でファールしてしまう。結局最後まで軌道修正することができず、2投目の31m34で3部で6位であった。谷はやり投に集中していたため円盤投の練習は全くできておらず、1投目からファールしてしまう。2投目には何とか29m48の記録を残し、結局29m48の18位であった。

今回は2人とも他の出場種目がありなかなか円盤の練習が積めなかったため苦戦したが、決して全体的にレベルの高い試合ではなかった。来年以降関カレの舞台で東大の選手が入賞争いを繰り広げることも不可能ではないので、今後の一年生を含めた投擲のレベルアップが期待される。

男子2部・3部混成1日目(5/16)

9:00 100m

混成競技は持永(M2)の出場。今季初めの試合で自己記録を0"17更新し、ここまで2試合連続で去年までを上回る記録を出している100m。是非とも自己記録を更新していい流れに乗ってもらいたい。2組の3レーンに出場。スタートの号砲と同時に良い飛び出しをして両脇の選手を引き離す、しかし2つ外側の選手がさらに良いスタートで前に出る。非常に強い向かい風のためか体がすぐに起きてしまいスピードに乗りきれなかった持永であるが最後まで前をいく選手に食らいつく走りを見せ11"72の3着でフィニッシュ。風は-2.3m。この種目707点であった。風を考慮すると自己記録近い走りが出ていたためこの後の種目に期待を持てる内容となった。

10:30 走幅跳

持永にとって今まで追い風参考以外で6m台を跳んだことのない走幅跳。また跳躍種目が原因で持永は去年一年間怪我でシーズンを棒に振っているだけあって不安の残る種

目。助走合わせの走りを見る感じでは練習不足の感は否めないが、踏切位置は安定しているため何としても良い記録を残してもらいたい。1跳目、風を待ち、追い風になったところで助走開始。リラックスした走りはじめから、踏切に向けピッチを上げていく。力まず、きれいに板の上で踏切をし、そり跳びで着地。記録は6m17(+1.6)で大幅自己記録更新となった。2跳目は、1跳目で記録が出たことによる安心感からか踏み切りで潰れてしまい5m62(+0.1m)となった。3跳目は、気持ちを入れなおし集中して助走開始。踏切までは良かったわずかにファールし記録なし。この種目6m17(+1.6)の624点を獲得し、走幅跳で自身初の600点越えとなった。

12:35 砲丸投

自己記録を今季11m48に伸ばした種目であるために非常に期待が持てる砲丸投。見た目の細さからは想像できない投げをする持永。練習投で12m近い投擲をし、1部校の十種選手にも遜色ない勢いを見せる。1投目、ファールの多い持永は確実に記録を残していくために若干腰の抜けた投げになってしまったが、10m82を投げる。30人以上いるため2投目が回ってくるのは大分先になるので、1投目のあと手首に巻くテーピングを外し横になり集中を高める。順番が回ってきて砲丸を持ってサークルに入る持永だったがここでテーピングを巻き忘れたことに気付く。しかし、試技時間が限られているため、そのまま投げの動作に入る。グライドの後、きれいにパワーポジションに入り、上半身のためにも良い感じでそのまま一気に地面をけり砲丸を押していく。最後の振りきりの時にテーピングをしていない手首が若干押し負けてスナップがうまく使えなかったが、砲丸はきれいな放物線を描き11m台後半の位置に落ちる。記録はなんと11m62となる。自己記録を更新し、思わずガッツポーズが出る持永。3投目は2投目で巻き忘れたテーピングをしてサークルへ。グライドのあとパワーポジションにうまく入れず投擲角が低くなり10m台に落ち、身

体も前から出てしまいファール。この種目は、自己記録を14cm更新の11m62、583点であった。3種目終わった時点で1914点の7番手につける。

14:40 走高跳

前の種目の勢いそのままに自己記録の更新を目指したい走高跳。しかし助走練習では最後の5歩のカーブが安定せず踏み切り位置が定まらない。練習跳躍は1m70で行うが踏切ができずに失敗してしまい不安を隠せない。ここで、関東インカレの元大会記録保持者である父の指導を思い出しながら徐々に助走を改善していく。いつもは1m70以上から跳び始める持永であるが、助走を試合の中で修正していくために1m65からの試技開始。危なげない跳躍でバーにかすりながらも1回目の試技で成功。1m70への挑戦。助走を確実に走り、この高さもバーにかすりながらではあるが成功する。1m75への挑戦。徐々に助走も安定してきてなんとかなるかと思われたが、惜しくも3試技とも失敗し、まさかの試技終了となった。この種目1m70で544点を獲得し、4種目終わった時点で2458点となり8番手に後退してしまった。

17:40 400m

今季に入り0"1程ではあるが自己記録を更新している400m。走高跳を5試技で終えたことを体力温存と考え是非ともいい走りをしてもらいたい。表情からは若干の疲れがうかがえるが、アップにはまだまだキレがあり集中して走れば良い記録が期待できそうである。持永は1組目6レーン、外側には100mで好記録を出した平成国際大の選手。しっかりついて行き、あわよくば勝ってもらいたいところである。スタートの合図と同時に軽やかに出る持永。案の定、外側の平国大の選手が飛ばすが、持永も離されないようにしっかりついていく。短距離の調子が良い持永は最初の200mを、自己記録を上回るペースで通過する。第二曲走路で内側の群馬大の選手に交わされるが、焦らずにコーナーを落ちて走り抜ける。最後

の直線で前を行く平国大、群馬大の選手を必死で追いかけ、残り50m程のところ群馬大の選手に並びそのまま追い抜く。平国大の選手には追い付かなかったが、最後の直線で粘りを見せ自己記録となる51"68の2着でフィニッシュ。この種目、自己記録を0"8程更新し739点で終えた。1日目3197点の自己記録ペースの7番手で折り返す。

男子2部・3部混成2日目(5/17)

9:00 110mH

今季自己記録を更新した種目でもある110mH。さらに記録を伸ばし、1日目の勢いそのままに2日目を乗り切ってもらいたいところである。小雨が降ったりやんだりのコンディションの中、1日目の疲れを見せずにアップをする持永。周りの速い選手に惑わされることなくしっかりハードリングをして、走りきってもらいたい。1組6レーンに出場。スタートの合図で刻み気味に飛び出す。1台目のハードリングで内側の東学大の選手と手がぶつかってしまうが、バランスを崩すことなく走り抜ける。2レーン4レーンの自己記録が15秒台前半の選手が飛び出て、5レーン7レーンの選手と3番手争いをする。外側の群馬大の選手にわずかに先行されるが、硬くならず最後までしっかり走りきった。走り終わった後の足からは流血していたが、向かい風の中、自己記録に0"03迫る走りを見せる。この種目16"73(-1.5)の653点で自己記録ペースを保ったまま終える。6種目終え、3850点の8番手につけた。

10:15 円盤投

今季一番自己記録を更新している種目である円盤投。110mHでの負傷をものともせず頑張りてもらいたい。練習投では30mをわずかに超えるあたりまで飛ばすが、疲労からか以前の試合の槍投で痛めた腰をかばう様子を見せる。この種目ではいかに雨で濡れたサークルに自分の投げを合わせられるかが勝負となりそうである。持永の1投目、サークルの滑り具合を確かめる感じで回転し32m81を投げる。砲丸に続き次の

試技順まで時間があるため、ストレッチをして少しでも疲労回復をする。2投目、身体のキレはいまひとつであるが、ファーストターンからセカンドターンまで滑らかに加速し33m39を投げる。この時点でまだ記録を伸ばす余地がある持永はしっかり次の投擲まで休んだ。最後の3投目、持永は自分の数人前からアップを開始し集中も十分の中、サークルに入り気合いの入った声を上げる。ファーストターンを滑らかに回り、セカンドターンで一気に加速し、腰が入った投擲は円盤を高い軌道に放った。ほとんどぶれることなく回った円盤は35m付近に落ちる。この時の投擲が自己記録を上回る34m88となり561点を獲得した。この時点で4411点の7番手であった。

13:00 棒高跳

練習不足からなかなか調子の上でこない棒高跳。円盤投の後、痛めていた腰のケアで棒高跳のピットに遅れて到着。この時点でほとんど助走合わせの時間が残っていなかったが、2本程助走練習をした。練習跳躍はポールがうまく立たずに失敗するが、使用ポールが15ftということもあり3m30からの跳躍開始。3m30の1跳目、風が強く回る中、弱まったところで助走開始。しかし、突っ込み直前に強い横風に合い、ポールがボックスではなくマットに突き刺さった。勢いはあったが当然ポールが立つわけもなく、ポールが折れそうになったところで持永は手を離れた。悲劇はその後起きた。曲がってエネルギーを溜めたポールが跳ね返り持永の腹を強打。観客の悲鳴とともにそのままマットにうずくまる持永。しばらくし、何とかして起き上がった持永の腹には痛々しい跡が。次の跳躍では必死に痛みをこらえ走るが失敗。残された3跳目。短いポールに変え、何とか踏み切り3m30を超える。この後も助走がまともにできずに次の3m60はすべて失敗。この種目3m30の431点で終える。持永の腹部は内出血こそひどかったが内臓には影響がないとわかり、途中棄権はせずに競技続行となった。8種目目終了で4842点の7番手で順位変わらずで

あった。

15:30 やり投

昨季最後の試合でベストを更新したやり投だが、今季は槍投が原因の腰痛もありどうも調子が上がってこない。棒高跳の怪我をものともせずいい記録を出してもらいたい。練習投ではかろうじて30mを越えるほどの投げしかできない。45mの自己記録を持つ持永にとっては少なくとも40m前後が期待される。1投目、気合いは垣間見られるが空回りし、槍の迎え角が大きくなり38m76。小雨のなかの2,3投目、腕をしっかり振り切れずに槍が高く上がりすぎ、身体も前から出てファール。なかなか調子の上がない槍は38m76の424点で試技を終えた。9種目を終えた時点で5266点の9番と大きく後退してしまった。

18:30 1500m

長距離出身の持永にとって一番の得意種目。今季は練習不足の影響もあり、4'50"前後しか出せていないが、最後に意地を見せてもらいたいものである。多少腹部が痛そうではあるが、アップからは良い走りを期待せざるを得ない感じであった。レーンはここまでの順位順で9レーンとなった。スタートの合図で周りの屈強な選手が一気に飛び出す。ぶつからないように少し抑え目で持永はスタート。50m程を通過したところで6番手あたりにつけ、ペースを整える。300m程を通過したあたりで東学大の選手が1人飛び出し、持永は2番手以下の集団の中で周りの様子をうかがいながら走る。1周目の通過は73"4で持永にとっては若干遅いペースである。そこから一気に2番手以下の集団のペースが落ちるが、その集団の中で完全に囲まれた持永は抜け出せないでいる。700m通過あたりでスローペースを嫌った持永は集団の斜め後方から強引にアウトレーンに出て一気に集団の前に出る。800mは単独の2番手で通過したが、スローペースだったため、この1周は79"4であった。900mあたりで前を独走する東学大の選手をとらえると、1000mの通過のタイムが

遅いと感じたのか、一気にそこからペースをあげ東学大の選手を抜き去る。そこからは独走となり、1200mを通過した時点での一周のタイムを72"1まで上げた。ラスト300mは後続を寄せ付けず52"で走り抜け、見事1着でフィニッシュ。この時の記録は4'37"26の698点であった。途中スローペースで思うように記録が出せなかった持永だが、しっかり最後の種目を1位で締めた。

男子2部・3部混成競技総括 院生の部でわずかに上位に及ばず4位で終わったが、まさかの事故の中、見事に自己記録を更新し5964点を出した。まだ伸びる余地は十分あるので今後とも頑張ってもらいたい。

1.5 試合結果

第88回関東学生陸上競技対校選手権大会

於 国立霞ヶ丘競技場 (H21.5.16,17,23,24)
 於 日本大学陸上競技場 (ハンマー投)

2部男子800m決勝

1	松島大翔	上武大	1'52"26
2	中島雅達	大東大	1'52"44
3	國友正信	東工大	1'52"52
4	佐藤豪	専大	1'52"92
5	中塚陵太	亜大	1'53"70
6	山崎達也	平成国大	1'54"26
7	清沢創一	東学大	1'54"47
8	上野智幸	國學院大	1'55"12

2部男子800m予選(2着+2)

2組

5	渡邊拓也	東大	1'59"29
---	------	----	---------

2部男子ハーフマラソン決勝

1	五ヶ谷宏司	専大	1:04'50
2	木下潤哉	東農大	1:04'53
3	中村亮太	帝京大	1:04'53
4	佐野広明	麗澤大	1:04'59
5	板垣辰矢	帝京大	1:05'00

6	清水和朗	東農大	1:05'03
7	石田康雄	上武大	1:05'22
8	井上直紀	専大	1:05'23
52	<u>山田健太郎</u>	東大	1:11'06

2部男子 110mH 決勝 (-2.4)

1	佐藤大志	青学大	14"45
2	廣田康大	東経大	14"56
3	井上雄貴	立大	14"80
4	岩国英昭	立大	14"86
5	奥岡真也	東理大	14"93
6	牛田朋宏	青学大	14"96
7	古川拓人	平成国大	15"14
8	久保樹	横国大	15"31

2部男子 110mH 準決勝 (4着)

2組 (-1.4)

8	<u>酒谷彰一</u>	東大	15"53
---	-------------	----	-------

2部男子 110mH 予選 (3着+4)

1組 (-0.7)

6	<u>酒谷彰一</u>	東大	15"46 q
---	-------------	----	---------

2部男子 400mH 決勝

1	三村達也	宇大	47"89
2	岩国英昭	立大	47"95
3	井上裕之	玉川大	48"19
4	関慎吾	大東大	48"35
5	押味毅人	東工科大	48"40
6	中島雅達	大東大	48"59
7	高橋宏輔	成蹊大	48"87
8	加藤雅俊	上武大	48"91

2部男子 400mH 予選 (1着+4)

2組

6	<u>上松祐太</u>	東大	57"07
---	-------------	----	-------

2部 10000mW 決勝

1	今井勇司	上武大	43'20"05(NGR)
2	池野隼	平成国大	43'27"58
3	山口貴史	東学大	43'49"69
4	村上格	東学大	43'57"15

5	松本知大	平成国大	44'58"39
6	佐久間貴弘	千商大	45'02"16
7	田口雄助	上武大	45'47"61
8	藤永健太	帝京大	45'53"00
14	<u>早川晃司</u>	東大	51'26"60
15	<u>北沢太郎</u>	東大	52'26"73
-	<u>井上雄介</u>	東大	DSQ

2部男子 4 × 100mR 決勝

1	平成国大	40"28(NGR)
2	大東大	40"39(EGR)
3	都留文大	40"87
4	千商大	40"98
5	上武大	41"17
6	成蹊大	41"20
7	東経大	41"27
8	神大	41"30

2部男子 4 × 100mR 予選 (3着+1)

2組

5	<u>東大</u>	42"69
(中嶋-都井-増本-西田)		

2部男子 4 × 400mR 決勝

1	立大	3'13"31
2	平成国大	3'13"41
3	上武大	3'15"15
4	神大	3'15"32
5	駿河台大	3'15"53
6	成蹊大	3'16"90
7	大東大	3'18"13
8	玉川大	3'19"32

2部男子 4 × 400mR 予選 (1着+4)

2組

6	<u>東大</u>	3'23"92
(増本-川村-定金-坂井)		

2部男子三段跳決勝

1	林武彦	日本橋大	15m32(+2.8)
2	西岡将貴	大東大	14m95(+0.2)
3	山田一輝	埼大	14m85(+2.1)

4	中村祐亮	国武大	14m44(+1.9)
5	廣瀬彬	東大	14m38(+1.0)
6	榎本徹也	千商大	14m35(+3.7)
7	林陵平	都留文大	14m35(+0.1)
8	田口典裕	宇都宮大	14m27(+2.6)

2部男子円盤投決勝

1	高橋大地	山梨大	38m85
2	後藤純平	平成国大	38m51
3	小島聡	東学大	37m71
4	小松崎治	平成国大	37m45
5	藤原康隆	東学大	36m75
6	古池伸哉	東理大	35m76
7	矢内寿	平成国大	35m73
8	近藤教憲	山梨大	34m94
18	谷彰一郎	東大	29m48

2部男子ハンマー投決勝

1	高橋大地	山梨大	57m09
2	吉原智樹	流経大	52m71
3	秦知久	埼大	51m41
4	石崎充	流経大	48m20
5	小松崎治	平成国大	46m97
6	山方周	明海大	46m65
7	小島聡	東学大	46m64
8	中西啓太	明海大	46m32
18	寺島孝明	東大	39m51

2部男子やり投決勝

1	関根拓也	上武大	62m80
2	加藤木龍太	流経大	62m64
3	谷彰一郎	東大	62m59
4	越後谷昂	上武大	60m18
5	蔵野優輝	上武大	60m08
6	河本佳範	創価大	57m89
7	斎藤駿介	高崎経大	57m64
8	ホアン	茨城大	57m35

2部男子やり投予選 (Q:60m00)

1組			
5	谷彰一郎	東大	55m31 q

1部女子100mH決勝 (-1.4)

1	川船愛美	青学大	13"71
2	紫村仁美	早大	14"15
3	赤井涼香	中大	14"16
4	水村明日香	平成国大	14"20
5	山本望	早大	14"30
6	上田美鈴	青学大	14"37
7	木村文子	横国大	14"42
8	雨谷葉月	東学大	14"51

1部女子100mH予選

1組 (-1.1)			
7	久保木結	東大	17"00

1部女子ハンマー投決勝

1	分目千晴	順大	52m16
2	小野祐紀子	国士大	47m96
3	弓削真理子	茨城大	47m27
4	小倉佑佳里	順大	47m00
5	竹山知香	中大	44m13
6	二見有紀乃	茨城大	43m60
7	川島理恵子	東海大	42m20
8	斎藤友恵	東海大	40m12
17	楠木千尋	東大	27m05

1部女子4×400mR決勝

1	早大	3'40"52
2	都留文大	3'41"21
3	平成国大	3'41"68
4	中大	3'42"53
5	慶大	3'45"49
6	日女体大	3'47"27
7	立大	3'47"97
-	青学大	DSQ

女子4×400mR予選 (2着+2)

3組			
7	東大	4'20"23	(清水-日下-高山-楠木)

3部男子400m決勝

1	佐藤恒一	群大院	48"35
---	------	-----	-------

2	前田慧	横国大院	48"49
3	原平大	早大院	49"18
4	小福田大輔	東大院	49"67
5	鈴木大地	東学大院	49"98
6	駒林寿保	東理大院	50"14
7	佐藤正淑	宇大院	50"78

3部男子1500m決勝

1	石原宏尚	東大院	4'07"30
---	------	-----	---------

3部男子5000m決勝

1	中山壮一	横国大院	14'42"72
2	依田崇弘	東大院	14'45"52

3部男子10000m決勝

1	依田崇弘	東大院	30'57"22
---	------	-----	----------

3部男子ハーフマラソン決勝

1	石原宏尚	東大院	1:09'15
2	綿谷貴志	横国大院	1:10'09
3	大城将範	筑波大院	1:11'23

3部男子砲丸投決勝

1	小町昂史	山梨大院	12m25
2	久保田尊士	国土大院	12m41
3	持永新	東大院	11m12

3部男子円盤投決勝

1	木村潤平	東海大院	44m85
2	町田慎	国武大院	43m27
3	右代啓祐	国土大院	40m21
6	持永新	東大院	31m34

3部男子十種競技決勝

1	沢辺直人	山梨大院	6626
2	宮原智史	国土大院	6397
3	坂口将太	筑波大院	5995
4	持永新	東大院	5964

1部男子総合

1	筑波大	122
---	-----	-----

2	順大	112.83
3	東海大	105
14	城西大	17
15	駒大	15(降格)
-	日体大	0(降格)

2部男子総合

1	平成国大	95.5(昇格)
2	上武大	79(昇格)
3	大東大	74
24	東大	10

1部女子総合

1	筑波大	151
2	中大	119.5
3	順大	56

3部男子総合

1	山梨大院	21
2	筑波大院	14
3	東大院	12

2 国公立戦

2.1 監督の言葉

監督 寺田秋夫

男女とも2位ながら男子：自己記録続出、女子：新戦力活躍

第57回東京地区国公立大学対校戦は20-25度、基本的には薄曇のまずまずのコンディションの中、町田市営競技場で開催されました。ここ数年と同様、関東インカレ翌週の開催で、主力が調子は下降気味ですのでインカレ出場ならなかった選手の奮起を期待し、緊張感のある試合を願っていました。また今回は、一部種目では台所事情もあり、1年生・院生を多用するエントリーで、ここもどういった結果になるか期待と不安半々の試合となりました。

そんな中で第一種目の女子3000mでいきなり、1年生を2名起用したところ、杉浦が学芸大の2番手選手と終始競り合うレースを見せ大いに盛り上がり、苦戦を覚悟した男子100mでも、4年

中嶋、都井の二人が自己記録を出し、都井は決勝に進みます。その後もこれに触発されたのか、短距離を中心に自己記録が連発され、男子は0.5点差でフィールド優勝し、総合でも4年谷(槍投60m30)の大会新を含む5種目の種目優勝と、全種目で得点獲得を果たし、教育実習で主力を欠く学芸大を30点差にまで追い詰めました。

内容的にも5000mでは山田・宮野・東の2年生トリオで上位独占を意識した見ごたえあるレースや、4x400mリレーでアンカーの3年原(混成)が執念深い走りで逆転での4位獲得は、最近にない展開で気持ちよく試合が締めくくられました。また、2人の3年生(酒谷(110mH)、西田(3年幅跳び6m83の関東インカレ標準突破))が自己記録更新での優勝を果たしたのは、良い展開です。

女子も新戦力をふんだんに起用しましたが、これが大当たりで、学芸大のコーチが驚くほどの活躍の1年生が9点獲得し、結局女子も対校全種目で得点をあげ、学芸大の95点には大差を喫しましたが47点獲得の2位となりました。院生の活躍にも負うところが多いのは事実ですが、躍進とってよいと思います。もともと期待していた今年の子チームでしたが、今年がピークでなく新たな時代に入っていき期待が持てます。

終わってみればオープン種目も含めて男女合計で25の自己記録更新がみられ、勝敗・対校得点以上に着実にチームが成長していくと感じさせる収穫多い試合となりました。また、長距離を中心に1年生がオープンで積極的なレースを見せたのも印象的でした。但し、良いことづくめでなく、頼みのエースが記録なしに終わったり、4x100mリレーで最後の詰めの甘さもありで一橋と同着に持ち込まれ、結果トラック得点で東工大に0.5点差をつけられトラック3位になってしまうなど、信頼した戦力をつめの甘いところが出たのは少々残念した。7大戦で勝ちを目指すには、やはり取りこぼしがあっては厳しいです。さて、ここで、過密の試合スケジュールはひと段落ですが、今日の結果を良く振り返って練習に活かし、四大戦で更に自信をつけ、主幹の七大戦では他大をびっくりさせる結果を出したいと思います。

話題は変わりますが、騒ぎは過ぎつつありイン

フルエンザ関係ですが、関西ではインフルエンザの影響で、競技会の中止が相次いでいます。東大陸上運動部といたしましては、大学当局から活動中止の指示がなければ、対校戦には出場してまいります。主幹の七大戦も、万一、一部の他大が遠征自粛となった場合でも基本的には競技会そのものは開催する方向で対応したく、各校マネージャーと協議の予定です。変わらぬご声援をお願いいたします。

2.2 主将の言葉

主将 廣瀬 彬

国公立戦は関東インカレの直後の試合ということで例年気が抜けがちではありますが、今年は「試合に出るからには少しでも上を狙う、かつ今後につながる何かを学んでくる」ということを伝えてきました。そのおかげか、多くの者が自己ベストを更新したこと、多種目にわたって優勝があったことなど例年にない活気がありました。総合結果が例年通り2位であったことは真摯にうけとめねばなりません。関東インカレの反省がしっかり生かされたという点においては非常に良かったと思います。こういう雰囲気がある限り、このチームはまだ強くなっていく可能性を秘めています。この雰囲気を継続させ、七大戦までの2ヶ月みんなでしっかり頑張っていきたいと思います。これからも変わらぬご指導、ご支援よろしく願いいたします。

2.3 女子主将の言葉

女子主将 日下桃子

女子にとってはシーズン最初の対校戦である国公立戦は、例年通りの総合2位でしたが、個々の活躍からは例年以上の手応えを感じる結果でした。今回デビュー戦だった中距離女子の3000m、800mは積極的ないいレースで、タイムも初戦としては上出来でした。先日の関東インカレでデビューした久保木(1年)もOP種目の100mHで1秒もタイムを伸ばし、わずか半月で動きを修正するあたりはさすがだと思います。一方で上級生もいい結果を残すことができました。日下(4年)の400m、高山(3年)の100m、鈴木(2年)

の800mでは自己ベストを更新し、清水(4年)の100mでは自己ベストに迫る13"29という好タイムが出ました。4×100mRも昨年のシーズンベストタイの52"68が出ており、今後チームベストは間違いなく出ると期待できます。また、大学院からの新入部員も布陣に入れ、皆で対校戦に臨んだことで良い連帯感が生まれたと思います。今年は学部14名、大学院4名という大所帯になった女子チームをますます活気づけていきたいです。七月の四大戦、七大戦に向けて一同頑張りますので、これからもご指導、ご声援のほどよろしくお願いいたします。

2.4 試合経過

トラック

9:15 女子3000m 決勝

杉浦(1年)、立岡(1年)の出場。新生の2人が対校選手として出場することになったが、高校時代の2人の自己ベストは杉浦が11'01"、立岡が10'47"という好記録を持ち、大学で始めてから体力が戻らず苦勞しているとはいえ、対校得点の獲得に向けて期待がかけられた。競技日程の最初という朝早くのレースで、曇り空で風も少なく長距離のレースとしては良いコンディションの中でスタート。

スタートと同時に学芸大の田島が飛び出し、それに後続する選手たちは集団もできず、まだらなままレースを展開した。杉浦は最初の400mを84"で通過し3番手につき、立岡は96"で通過して中位層でレースを進めた。杉浦はその後2人の選手に抜かれ、1000mを3'39"で通過し、立岡はペースを落とすことなく4'09"で通過した。以降は大きな順位変動はなく、2000mを杉浦は7'38"、立岡は8'15"と、杉浦は少しペースが落ちたが立岡はペースを維持して走り続けることができた。最後まで粘り強く走り、杉浦が11'40"44の5位、続く立岡も12'22"35の7位でゴールした。

2人ともまだまだ高校時代の実力が戻りきらない中、初めての対校戦への出場で思うような記録が出せず苦勞したが、合わせて6点の対校得点を獲得し、東大全体の成績にも貢献することができた。杉浦、立岡の2人の新生の今後の活躍が期待される。

9:35 男子400m 予選

1組3レーンに水上(3年)の出場。写真判定機の調子が思わしくなく、機械調整で何度も仕切り直してのスタートとなった。

早々に外側から選手が2人程上がり、集団をリードする。水上は負けじとこれに食い下がり、バックストレートで3位程かという良い位置をキープ。しかしながら、先頭の鈴木(学芸大)らが早くじりじりと距離を離される。200mを過ぎて内側からもう一人上がると、ここで踏ん張れずじわじわと失速。終盤での踏ん張りも虚しく、53"38の4着でフィニッシュ。下位4人のうちに拾われるのを待つ。

3組6レーンに赤木(3年)の出場。やはり開始早々に学芸大の松野が頭一つ抜き出るが赤木は無理にペースを崩すことはせず、落ち着いてこれに対応。200m以降も一定のペースを保つが、かえって勝負所が難しい展開になる。300m過ぎに前2人がスパートをかけると、赤木も対応するがもう一步伸びない。惜しくも53"01の3着でフィニッシュ。やはり全体の結果を待つ。

4組4レーンに川村(4年)の出場。号砲と共に勢い良く抜き出、水上、赤木とは対照的に力で押す強引な展開を作る。ずば抜けた加速力で200mを通過すると、そのままスピードに乗って集団を引き離し続ける。終盤やや詰め寄せられるがそれでも必死に耐え51"85の1着でフィニッシュ。全体の結果を待つ事なく決勝に進んだ。レースの結果下位通過には52'2が必要となり、惜しくも水上と赤木は予選落ちとなった。ど

の組も先頭が51"前後でレースを作っており、このあたりが今後の短長系の一つの目標となるだろう。

9:55 男子 100m 予選

まず、1組3レーンに中嶋(4年)が出場。気温も高くなく、決して良いグラウンドコンディションではないが、決勝進出も期待される選手である。号砲とともに勢いよく飛び出した中嶋は、得意のスタートで他選手に差をつける。中盤までは2着の位置を走るが、ゴール間際にかわされて3着でフィニッシュした。記録は11"42で、風は+0.2mであった。惜しくも決勝進出はならなかったものの、自己ベストを更新した。「可もなく不可もない」走りだったというが、課題の後半でもフォームを維持することができていた。七大戦では、さらなる自己ベスト更新が期待される。次に、3組5レーンに真木(1年)の出場。高校時代の自己ベスト11"25を持つ真木は、期待の新人である。しかし、試合当日の朝、左ふくらはぎがすり、まだ違和感が残っているという。号砲が鳴ると鋭いスタートを切るが、他の選手がフライング。気を取り直して2回目のスタートは、少し反応が遅れる。しかし大きな走りの中盤スピードをあげるが、後半はフォームが崩れてのびなかった。4着でゴール。記録は11"71、この時+0.2mと、ベストから考えれば残念な結果になったが、脚の状態と、受験のプランクを考えればまずまずだろう。今年の目標を「10秒台」とする真木は、これからどんな走りを見せてくれるか楽しみだ。

最後に、4組5レーンに都井(4年)の出場。当然、決勝進出が期待されている。まず、スタートでは安定した走りからスピードを上げ、この時点では1着または2着という位置。そして中盤以降は、豪快な走りですピードを維持し、1着の選手には少し離されるが、2着でゴール。記録は11"22で、この

ときの風はなかった。レース後に話を聞くと、関東インカレ以降足首に不安があり、今回も9割くらいで走ったというが、なんとそれでも自己ベストを更新した。「距離が短かった」と感じたそうだが、リラックスしたことによって余計な力が抜けたのだろうか。タイムで拾われ決勝に進出する。

10:15 女子 100m 予選

1組3レーンに清水(4年)の出場。今年で最高学年となった清水は決勝に進出したいところである。号砲が鳴る。スタートでやや出遅れてしまうものの、中盤から後半にかけて抜群の伸びを見せ13"59の3着でゴール。このときの風は+0.0mであった。これにより決勝進出が決まった。スタートに関しては満足のいくものではなかったが、決勝に確実に進出したという点では良いレースであった。

2組7レーンに高山(3年)の出場。高山も決勝進出を目指してのレースである。高山は落ち着いたスタートからうまく加速にのり、そのままの勢いで13"87の4着でフィニッシュした。このときの風は+0.2mであった。高山もこれにより決勝へと駒を進めた。さらにこの記録は高山の自己ベストであり、決勝でのレースにも期待がかかる。

10:25 男子 1500m タイムレース決勝

1組目に石川(4年)、東(2年)、池田(2年)の出場。三人とも春先はあまり調子が良くなかったものの、気温が上がるにつれて調子が上がってきたので得点が期待できた。

スタート直後から東工大の二人が前に出て積極的にレースを引っ張る形となった。その中で池田が前に食らいつき3番手に位置した。東、石川は縦長集団の中盤に位置した。一週目の通過は62秒であった。ハイペースに慣れていない石川にとってはきつい展開。

レースが進むにつれて徐々に集団から離れてしまった。池田・東は先頭からは離されるもののともに得点圏内で800mを通過し、東はスピードを上げていった。ラスト250m付近で後ろの大垣(一橋大)に抜かれて、スパートをかけるものの最後まで追い付けず、結局東は4'04"30の6着でゴール。池田はホームストレートまでは7位争いをしてきたもののハイペースの影響かいつものスパートができず、4'09"53の9着でゴール。石川は集団につくことができず、4'28"40の11着でゴール。タイムレースの結果、東が6位、池田が9位、石川が18位で計3点を獲得におわり、残念な結果に終わってしまった。しかし、対校戦の中で自己ベストを出せた東や2試合連続で一桁を出すことができた池田など調子は上がっているようなので、これからの練習で以降の対校戦の活躍に期待したい。

10:45 男子110mH タイムレース決勝

1組6レーンに酒谷(3年)、2組5レーンに増本(3年)、同6レーンに江間(3年)の出場。関カレに出場した酒谷をはじめ全員に得点獲得の期待が高まる。1組目のスタート。スタートからうまくスピードに乗った酒谷は3、4台目をうまく越えると、後半は独走し、15"19の1着でゴール。関カレの反省を生かしてリラックスして走れた効果もあり自己ベストを更新。今後の14秒台の期待も高まるレースとなった。

続いて2組目のスタート。スタートはほぼ横一線であったが増本が中盤抜け出し、江間も2番手につける。しかし増本が8台目のハードルに足をぶつけてしまい減速し、変わって江間が16"28の1着でゴール。増本は16"89の5着となった。江間も自己ベストを更新した。総合結果は、酒谷が1位、江間が8位、増本が13位であった。増本は不本意な結果であったが、酒谷、江間が自己

ベストを更新し、合計9点を獲得したので、全体としてはいい結果であった。

11:10 男子200m 予選

朝からあまり天気が良くなかったものの、競技前になると空は晴れ、気温も高まり記録への期待が高まる中で競技は行われた。1組2レーンに水上(3年)が出場。号砲が鳴る。スタートは決まりまずまずの出だしたがコーナートップの通過は4、5番目とみられ、後半の追い上げを期待したいところ。しかし同日に400mを走っており、その疲れもあってか後半があまりのびない。そのまま前に追いつくことができず、24"14の5着でフィニッシュ。この時の風は-0.1mであった。

2組に出場予定であった都井(4年)は足首痛のため、100mの決勝に備え200mは棄権した。3組4レーンに増本(3年)が出場。号砲と同時に選手が飛び出す。周りと同様のスタート。カーブでぐんぐんと加速し、最後の直線に入った時点でトップ。そのままトップをキープし最後は1着であることを確認し、流してフィニッシュ。22"99の自己ベストで1着であった。この時風はなかった。各組1着+タイム順で4人決勝に残ることができる本種目において、順当に予選を通過した。プラスによる決勝進出ラインは23"57となり水上は決勝進出はならなかった。増本の決勝での走りを期待したい。

11:55 男子800m 予選

1組4レーンに坂井(4年)の出場。最初から積極的に先頭を引っ張り、一周目を一番で通過し、持ちタイムが自分より上の相手の追走があるものの、そのまま前を譲らず1'56"85の1着でゴール。自己ベストを更新し、決勝進出を決めた。

3組6レーンに須田(4年)の出場。流れに乗るのに苦労しながらもラスト300mから勝負をしかけるが、ホーム

ストレートに入ったところで前の選手が膨らみ、それに対応したことで力を使ってしまい、ラストで動きが硬くなり1人にかわされてしまい2'01"46の3着でゴール。ロングスパートが功を奏しプラスの4番目での決勝進出を決めた。

4組4レーンに川口(4年)の出場。いつも通り先頭に立った川口だったが、学連の仕事による練習不足から走り伸びがなく、2週目に入っても自分の持ちタイム並みの力を出すことができず、2'06"0の3着でゴール。予選落ちであった。

12:45 女子 100m 決勝

2レーンに清水(4年)、7レーンに高山(3年)の出場。両者とも予選では良い走りをしており、期待のかかるレースである。号砲が鳴る。清水は予選のスタートの失敗を生かし、良い反応を見せる。そこからさらに加速し、13"29の5位でフィニッシュした。一方、高山もまずまずのスタートを切る。好調な高山は予選よりもさらに伸びやかな走りをし、予選で出した自己ベストをさらに更新し、13"67の8位でフィニッシュした。このとき風は+0.1mであった。両者ともに、満足のいくレースではあったが、東学大の川口が12"20の大会新で優勝しており、今後東学大と戦うことを考えると、二人のさらなる飛躍に期待したい。

12:50 男子 100m 決勝

7レーンに都井(4年)の出場。まず、1回目のスタートは5レーンのフライングであった。2回目のスタート、都井はまずまずのスタートから加速しながら他選手と競ると、中盤では少し力が入ってしまったのか、徐々に落ちていく。最後まであまりスピードに乗れなかった。7位でフィニッシュし、記録は11"31。この時風はなかった。やはり足首には不安があったようだが、予選と決勝でのタイムの差がなぜ生まれ

たのか、考える必要がありそうだ。短距離パートのエースであり、今後も多くのレースを走ることが予想されるので、まずは足首を治して万全な状態にしてほしい。

13:00 女子 400m タイムレース決勝

1組3レーンに堀越(D3)、5レーンに日下(4年)の出場。今年は女子部員が増えたため、日下は400m、4×100mRに集中でき、いい記録が期待される。また、持ちタイムで日下は2番目、堀越は3番目であり、大量得点が期待される。

日下はいいスタートをきり、前半から積極的にとばす。周りの選手から抜け出し、川口(東学大)との一騎打ちになる。先行する川口(東学大)にラストまで食い下がるものの惜しくも届かず、1'00"65の2着でゴール。自己ベストを更新する見事な走りだった。一方、堀越は落ち着いて入り、終始安定したレースを展開する。日下に続く1'03"11の3着でゴール。きっちり仕事を果たす。タイムレースの結果、日下は2位、堀越は3位で計13点を獲得した。両選手とも実力を発揮できたいレースだった。

13:10 男子 400m 決勝

3レーンに川村(4年)の出場。自己ベストをマークし、予選でぶっちぎった勢いそのままにレースを支配できるか。痛めた足と闘いながらではあるが、好走を期待したいところ。

号砲とともに勢い良く飛び出す。予選の時と同じように最初から飛ばすが、全体のペースも早いと主導権を握るまでには至らない。それでも全体の中では上の位置について、学芸大の選手を捉えようとする。第二曲走路で4-6レーンの3人が抜け出て、川村は7,8レーンの選手と中堅争いをする。最後まで粘るが、前5人に追いつく事はできず、52"01の6位でフィニッシュとなった。このレースで3点を獲得した。

14:30 男子 200m 決勝

6レーンに増本(3年)の出場。午後になり降り始めた雨は止んだが、気温はやや低い。予選ではリラックスしたいい走りを見せてくれ自己ベストを更新。決勝では更なる自己ベストの更新が期待される。

号砲が鳴る。スタートでやや遅れをとったが、ストライドの広い豪快な走りで加速し、中盤盛りかえす。コーナーを出た時点では5-6着。後半追い上げが期待されたが、力んでしまい少しバランスを崩してしまい、思っていたほどの伸びがない。それでも最後に内側の選手を食って22"99の5位でフィニッシュ。この時の風は、+0.8mであった。後半力んでしまい、悔いの残るレースであった。四大戦、七大戦ではもっといい走りを見せてくれることを期待したい。

14:40 男子 400mH タイムレース決勝

1組1レーンに江間(3年)、2レーンに赤木(3年)の出場。周囲の予想通り天候の崩れた午後、小雨のなかでのレースとなった。江間の調子は悪くはなかったものの、一方の赤木は練習不足や直前の400mの疲労を抱えた状態であった。序盤、赤木は緩やかにスタート、だが3台目でフォームを崩してしまい江間にリードを譲ってしまった。江間が終始赤木に対しリードをとるかと思われたが、8台目以降赤木、意地をみせ追い上げる。江間にぐいぐいと近づき、そして最後のストレートで追い抜きゴール。記録は、江間が自己ベストで58"07の7着で、赤木が57"91の6着であった。全体では江間は8位、赤木は6位だった。両者ともに七大戦に向けての課題が明確になった試合であった。

15:05 男子 800m 決勝

1レーンに須田(4年)、3レーンに坂井(4年)の出場。予選の記録からは坂井が抜き出していたが、大幅な自己ベ

ストということもあり、疲れが心配された。須田も同様練習不足からスタミナ不足が心配された。

坂井は積極的に飛ばし、合流地点では予選と同様に先頭に立ち、須田は集団の後方につける。しかし、坂井は予選の疲れから少しずつ後退してしまう。須田は集団に遅れることなく食らいついていた。先頭集団とは徐々に離れるものの須田は気持ちを切らすことなく500m付近で坂井を抜き、5位集団をスパートで抜けだし、そのまま逃げ切り2'01"90の5位でゴール。坂井はその後もペースを上げることができず、ずるずると後退してしまい、2'04"11の7位でゴール。

この種目での得点は計6点であり、残念な結果になってしまったが、坂井の関カレ標準に迫る自己ベストや、須田が自己ベストに近いタイムで2本揃えてきたことは、今後の糧となるだろう。七大戦までに須田には一分台の記録を、坂井には予選・決勝と走れるだけの実力・ペース感覚を身に付けてもらうことで七大戦では大いに期待できるであろう。坂井にはこの後マイルリレーがあるので頑張ってもらいたい。

15:10 女子 800m タイムレース決勝

鈴木(2年)、浜松(1年)の出場。鈴木、浜松ともに得点が期待される。スタート直後学芸大の選手2名が先頭にたち、鈴木は6レーンから積極的にスピードを上げ3番手に位置し、浜松はその後ろ4番手に位置した。ホームストレートでは鈴木が失速し始めたが、浜松はしっかりとスピードを保ち4番手で2周目に突入した。バックストレートでは鈴木が序盤攻めた副作用で順位を落とした。浜松は他大の2選手と3位集団を形成した。ラストの直線で浜松は競り負けたものの久しぶりのレースとしては上出来の2'32"08で5位でゴール。鈴木もペースが落ちたものの後半なんとか粘り大学ベストの

2'41"51で8位であった。

浜松はブランクが長いにも関わらずタイムも悪くなかったためそのまま怪我がなければ次の四大戦や七大戦ではもっといいレース、タイムが期待できる。鈴木は去年とは比較にならないほど走りがよくなっているため、練習でも大会のような積極性を出せば更なる飛躍が見込める。

15:25 男子4×100mR タイムレース決勝

2組6レーンに中嶋(4年)-都井(4年)-増本(3年)-西田(3年)の走順で出場。午後から降り出していた雨も上がり、風も緩やかであった。

中嶋はスタートで1歩出遅れるものの、前半で良い走りを見せ7レーンの一橋を抜き去るが、後半の伸びがなくライバル視している東学大との差を少し縮められたまま2走の都井へ。今回のバトンパスは絶妙によく都井は先頭でスタートを切れるが、すぐに学芸大に詰められる。都井は疲れが残っていたのか後半は余力での走りになり3走の増本へバトンをつなぐが、ここで掛け声のミスにより増本は減速した状態でのスタートとなり、この間に東学大に差をつけられバトンミスはないものの、3着で4走へ。西田は後半に素晴らしい伸びを見せ2位をぐんぐんと追い詰めるが、後ろから一橋のエースが追い上げ激しい2位争いとなり、結局一橋と同着3位でフィニッシュ。記録は42"84。

優勝は狙っていたが結果は残念であった、国公立戦では走者全員が自己ベストを出すことができたので自信はつけられただろう。四大戦、七大戦では攻めのバトンを見せてくれるだろう。

15:50 男子5000m 決勝

東(2年)、宮野(2年)、山田(2年)の出場。

東は1500mにも出場しており、疲労の度合いが気になるものの、2年生と

なって充実ぶりを見せる3選手の出場となり、特に山田は5月に5000mで15分03秒08の自己ベストをマークし、好調の波に乗っており、大量得点が期待された。

雨がやみ、落ち着いた天候の下でスタート。1000mの入りか3'07"と集団でのスローなレースが展開される中、3選手は集団前方でレースを進める。ところが2400mで宮野がペースアップしトップに立つと、集団がばらけ始める。その中でも東、山田は離されずに宮野についていく。3000m通過が9'17"、4000m通過が12'21"と宮野のレースメイクが続く中で、先頭集団は東大の3選手、一橋大の大垣・森田の5人に絞られた。

4300mで大垣がスパートをかけるも、4人を振り切るには至らず、ラスト1周を迎える。しかし4700mで山田がスパート、大垣がこれにつくも他の3選手は引き離された。ラスト200mになっても山田のスパートは衰えず、ついに大垣も離れて山田が15'13"49の1位でゴールした。大垣が2位となり、続いて宮野が15'17"86の3位、東が15'18"61の4位に入った。

大垣・東は1500mにも出場しており、その影響が見られたとはいえど、山田のレース運びは見事なものであった。中盤に積極的なレースメイクを見せた宮野も今後の活躍が期待される。この種目で東大は19点を獲得し、スコンク達成はならなかったものの素晴らしい戦績を残した。この勢いを保持し四大戦・七大戦においても力強い走りを見せてほしい。

16:15 女子4×100mR 決勝

5レーンに高山(3年)-清水(4年)-楠木(4年)-日下(4年)の走順で出場。参考記録上は2位だが、学芸大との差が大きい。昨年のように額面通りは悔しい。総合得点上は学芸大の優勝は覆せないが、なんとか一矢報いたいところであ

る。また、今年は関東インカレで4×100mRを経験しているわけではないので、バトンワークも実戦は初であった。

号砲が鳴る。やや高山が反応に遅れてスタート。100mの自己新を更新する一方で疲労が心配されており、少しひやりとするも、中盤からは危なげなくスピードに乗り、最後は集団のやや前方まで上がって2走とのリレーゾーンにさしかかる。しかし清水とのバトンパスがかなり窮屈になってやや後退する。清水はここから持ち前の爆発力を発揮して前方を追走。あっという間に周囲の他校を抜き去り、一瞬でバトンミスで帳消しにする脅威の伸び。しかし、学芸大が強い。じわじわと離され、1位の学芸大と3位以下の双方にやや差を作って楠木にバトンパス。楠木は序盤は良い飛び出しを見せるが、他種目出場の疲れからか学芸大に離される。4走日下も学芸大の後を追うが相手方アンカーに独走を許す。それでも3人が作った貯金は学芸大に継ぐ座を守るには十分すぎるほどで、日下はほぼ独り旅となってそのまま2位でフィニッシュ。52"68で7点をもぎ取った。

投擲専門の楠木を入れながらの52秒台は女子チーム初。着実な進歩を見せた。期待の新人・久保木も加わり、リレーメンバーの座を奪い合うようになれば七大での勝利も近いであろう。

16:30 男子4×400mR タイムレース決勝

2組6レーンに川村(4年)-坂井(4年)-高木(2年)-原(3年)の走順で出場。天候が心配されたがスタート直前には小雨になり、コンディションはさほど悪くない。

1走川村。まずまずのスタートを切るも、徐々に遅れていった。しかし粘り強い走りを見せ、2走坂井へとバトンを託した。2走坂井。出遅れてスタートを切った坂井は必死に追いつき、

徐々に差を縮めていった。しかし今一步及ばず、前を走る一橋を捕えることはできなかった。前に行く一橋を捕えたい東大の3走は高木。バトンを受け取った高木は序盤から果敢な走りを見せ、バックストレートではじわじわと前との差を縮めることができた。ホームストレートに入る頃には一橋を目前にまで捕えることができ、ほぼ同時に4走へバトンパス。ここで一気に追いつきたい東大の4走は原。序盤から飛ばした原は、バックストレートに入るところで一橋を捕えることができ、ここで東大は4位に浮上。対する一橋の4走も粘り強い走りを見せ、その差を広げるには至らなかった。ホームストレートで一橋の追い上げを受けるが、原も簡単には譲ろうとせず、見事逃げ切った。東大は4着で3'26"01。全体で4位だった。

序盤に差がついてしまったが後半に追いつけることができ、チーム全体としては悪くなかったように思う。今回見つかった課題を克服し、今後の試合に活かしていきたい。

フィールド

9:15 男子砲丸投 決勝

持永(M2)、寺島(4年)、平山(1年)の出場。心配されていた雨は降らなかったものの、やや肌寒く感じられる中競技が行われた。

持永は1投目をファールしたが、2投目で10m71を出し、2位でトップエイトに残った。後半の試技では4投目ファール、5投目10m42、6投目ファールとなり記録を伸ばせず、最終的に2投目の記録で2位となった。寺島は体調不良でコンディションが良くなかった。1投目で9m31を出し、3位でトップエイトを通過する。しかしその後、投げる際に体重が後ろに残ってしまい8m台が続き、1投目の記録で5位となった。平山は投げ方がしっかりせず

2投目の7m79が記録となりエイトラインには遠く及ばず、11位で終わった。

体が温まりにくい天候で、コンディションは良くなかったが、東大は11点を獲得した。今後の対校戦で院生の持永を欠いても砲丸を穴種目としないように、学部生で戦力を増強してほしい。

9:15 男子三段跳 決勝

廣瀬(4年)、定金(3年)、西田(3年)の出場。持ち記録からすると上位独占も狙える布陣であった。

廣瀬は関カレから試合続きで練習できていなかったためか、ホップでの減速が目立ちパツとしない跳躍が多かったがそれでも13m45を跳び1番手でトップエイトへ。西田は13mを大きく超える跳躍を見せるもののファールが多く13m35の2番手でトップエイトに進出。定金もファールに悩まされながらも13m13を跳び5番目で8人にのこる。その後5跳目に学芸の選手が13m49を跳びトップにたつが、同じ5跳目に西田がようやく足が合い、13m84の自己ベストで逆転。それに奮起した廣瀬が同じく5跳目に13m85を跳びまた逆転。6跳目は西田がファールし、13m88を跳んだ廣瀬が優勝した。定金は4跳目以降の試技でも足が合わず記録を伸ばすことができなかった。結果廣瀬が1位、西田が2位、定金が5位で19点を獲得し、期待に応えてくれた。

10:30 男子走高跳 決勝

荒井(4年)、坂本(3年)の出場。上位入賞は厳しいながら2人とも得点圏内で、同レベルの選手もいたため5cmの差、試技数の差で得点が変わってくる状況だった。

荒井は確実に記録をのこすためにまず1m55を余裕をもって跳ぶ。続く1m60では体がながれる悪いクセが出てしまい2回失敗してしまうが、3回

目はしっかり踏み切りに成功。そして自己ベスト挑戦となる1m65では全てがかみ合った跳躍で1回目で成功させた。1m70は高さが足りなく3回失敗した。坂本は1m65、1m70を危なげなく跳ぶが、1m75では3回とも尻をバーにかすらせて落としてしまった。坂本は調子が戻ってきているので1m75を跳ぶところを遠くないうちに見せてくれるだろう。荒井も1m55をはさみ跳びで超えたように力をつけているので技練をすればさらに伸びるだろう。結果坂本が5位で3.5点、荒井が7位で1.5点を獲得した。

11:45 男子棒高跳 決勝

持永(M2)、原(3年)、土居(2年)の出場。日はかげって気温が低く、試合終盤には強い雨も降るコンディションではあったが、終始無風であった。

まず、土居は故障中で練習を積んでいなかったため、3m00からの安全なスタート。1本目を落とすも、2本目でクリアしませんが記録を残す。原・持永はともに3m20からの跳躍で、原はこれを余裕をもってクリア。持永は短助走での跳躍となったが、ポールが合わず、1本目は流れて、2本目は完全にバーを越えながらも体が回転しすぎ、下からバーを蹴ってしまい失敗。しかし、3本目ではうまく調整しクリアした。その後、3人とも3m30までをパスし、3m40に挑む。原は、ターンが出来ていないながらも、高いグリップを活かしてこれを一発でクリア。続く持永は、オープン100mを走った直後の試技で3m40をクリアし、勝負強さを見せた。対校円盤投に同時出場していた持永はここで試技終了となった。土居は1本目はポールが曲がらず失敗するも、2本目は修正しクリア。続く3m50では、原は最後までターンができず、3本とも高さが足りずに失敗し試技を終えた。土居は、3m50・3m70ともに失敗しながらも、次第に跳躍を修正し

て行き、3m90では3本目でバーに触れながらもクリアした。しかし、4m00では跳躍を変えることができず、力不足でクリアはならなかった。

結果、土居が3m90で2位、原・持永がともに3m40で試技数差の6位・7位となり、この種目での東大の得点は12点でトップであった。また、オープンで出場した留学生のホワンも、3m30の自己ベストを跳び、今後の対校戦での戦力としての期待をもたせる結果となった。

12:20 男子円盤投 決勝

持永(M2)、谷(4年)、片山(1年)の出場。天候は曇りでたまに小雨が降る程度であった。どの選手も一つでも上の順位につくことで対校戦の点数を稼ぐことが期待された。

片山は緊張から練習通りの投擲ができず、3投目21m41を投げて3投で試技を終了した。谷は1投目に27m74の記録を出しベスト2に残るためには十分な記録を出して、その後の投擲は思い切りよく臨んだ。2投目に27m74、続く3、4、5投はファールとなってしまったものの6投目に29m04の記録を出して6位で競技を終了した。持永は円盤投げの競技の時間に棒高跳びと100mへの出場が重なり、円盤投げだけに集中することができない難しい環境で試技に臨んだ。1投目に25m50を投げたが、2、3投目はファールとなってしまった。しかし4投目には31m98を投げ、5投目は29m29、6投目は31m86で4投目の記録で4位となった。

谷、持永の両選手にはより技術を磨いて自己ベストの更新を期待したい。片山は試合形式の練習を増やすなどの方法で度胸をつけてもらいたい。

13:45 男子走幅跳 決勝

廣瀬(4年)、西田(3年)の出場。練習跳躍中に雨が降り出し、小雨の中の競技となった。

廣瀬は1跳目、2跳目と立て続けにファールをし、後がなくなった3跳目に助走距離を30cm伸ばして跳躍するも、ファールとなってしまった。結果、最悪の記録なしに終わり、対校得点を稼ぐことができなかった。6mを跳べば確実にトップエイトに残れ、廣瀬の実力からすれば十分に優勝を狙えただけに、非常に残念な結果である。西田は2跳目、3跳目と6m50台の記録を出し、午前中の三段跳で自己ベストを出した勢いそのままに力のある跳躍を見せた。そして、4跳目、ついに念願の関カレB標準を突破する6m83の自己ベストを出した。西田はこの記録で優勝を飾った。本人は、B標準突破により「やっと雑魚に昇格した」と話したが、この謙虚な気持ちを忘れずに貪欲に更なる上を目指してもらいたい。

13:45 女子走幅跳 決勝

野崎(D1)、高山(3年)の出場。両者共に今季最初の試合であり、雨が降り続く中、どこまで記録を出せるか注目された。野崎は1本目、三段跳の選手らしい持ち前の大きな走りでスピードに乗るが、足が合わないまま踏み切ってしまう、記録が出ない。修正した2本目は大きく踏み切るが惜しくもファールとなり、3本目に記録した3m55が全体で11番目の記録、ベスト8に残ることが出来なかった。高山は走力があがっており、踏切動作の改良に取り組んできた。記録は平凡であったが、3本目で惜しくもファールとなる5m00を超える跳躍を見せ、6本目に記録した4m74で4位となった。

二人とも、今後いっそうの技術練習に取り組み、切磋琢磨してより上の記録を目指して行ってほしい。

14:00 男子やり投 決勝

持永(M2)、谷(4年)、原(3年)の出場。雨が時折強く降る中での競技となった。谷は東学大の選手に競り勝ち

優勝を、持永、原はエイトに残り1点でも多く得点したいところであった。

持永はオープン種目を含めこの日5種目目であったが、さすがは十種選手、元気一杯な姿をみせていた。しかし、やりの方は元気がなく、結果は2投目の39m84で9位であった。谷は練習投擲から調子のよさそうな投擲をみせる。1投目から60m台を記録。ただ、足に不安を抱え、雨の影響も考え大事をとり、3投目以降はライバル選手の様子を見ることにした。結局1投目の記録を越されることなく、3投目以降は全てパスで優勝した。記録は60m30で大会新であった。原は昨年の国公立戦で雨の中ベストを出し入賞しており今年も同様の活躍が期待されたが、練習投擲から調子がよくなかった。1、2投目と30m前後の記録しか残せず、3投目は幾分ましな投擲ではあったものの記録は35m27で12位であった。

この種目東大は8点だが、いつもほぼ谷の得点となっている。絶対的なエースがおり、大量得点も見込める種目だけに、2番手以降の選手の奮起が必要である。

14:00 女子やり投 決勝

高橋(M1)、楠木(4年)の出場。時折激しい雨が降る中での試合となった。高橋はハードル、楠木は砲丸が専門の選手だが、出場すれば得点できる国公立戦のやり投で1点でも多く獲得するべく競技に臨んだ。

高橋はこの日初めてステップをつけた投擲を試みるも、うまくやりに力を伝えることができず、15m15で3投目までで7番となる。その後の3投も記録を伸ばすことができず、結局15m15で7位であった。楠木は3投目に22m92を投げ、学芸大の2選手以外を抑え3投目までで3番につけるが、後半3投では雨に集中力をそがれ、また首都大の選手に60cm逆転され、結局22m92の4位であった。

女子選手は今年倍増したが投擲選手は入っていない。新入部員は自分の種目で勝てるようになることが先決だが、対校戦で勝つことを考えると投擲種目も見過ごせない。今後を見据えて、投擲もこなすマルチプレイヤーがほしいところである。

2.5 試合結果

第57回東京地区国公立大学対校陸上競技大会
於 町田市立陸上競技場 (H21.5.31)

男子の部

100m 決勝 (+0.0)

1	齊藤諭	東工大	11"00
2	上埜大空	首都大	11"02
3	藤田裕樹	電通大	11"06
4	下沢将啓	東工大	11"10
5	永田雅之	一橋大	11"17
6	丹治宏樹	東学大	11"23
7	都井紘	東大	11"31
8	稲野龍太	電通大	11"45

100m 予選

2組 (+0.2)			
3	中嶋毅彰	東大	11"42
3組 (+0.2)			
2	真木伸浩	東大	11"71
2組 (+0.0)			
2	都井紘	東大	11"22 q

200m 決勝 (+0.8)

1	齊藤諭	東工大	22"58
2	下沢将哲	東工大	23"55
3	小澤順	一橋大	22"30
4	藤田裕樹	電通大	22"32
5	増本健太郎	東大	22"99
6	丹治宏樹	東工大	23"00
7	磯部洸太郎	東農工大	23"33
8	猪飼智志	東工大	23"71

200m 予選			
1組 (-0.4)			
5	<u>水上雄太</u>	東大	24"14
3組 (+0.0)			
1	<u>増本健太郎</u>	東大	22"99 Q
400m 決勝			
1	<u>鈴木大地</u>	東学大	49"61
2	<u>田中嘉法</u>	電通大	49"68
3	<u>松野大樹</u>	東学大	50"05
4	<u>小茂田洋輔</u>	首都大	51"00
5	<u>石川徹也</u>	東工大	51"41
6	<u>川村知正</u>	東大	52"01
7	<u>八幡彰</u>	首都大	52"86
8	<u>岩田一輝</u>	首都大	53"04
400m 予選			
1組			
4	<u>水上雄太</u>	東大	53"38
3組			
2	<u>赤木裕</u>	東大	53"01
4組			
3	<u>川村知正</u>	東大	51"85 Q
800m 決勝			
1	<u>古井啓介</u>	東学大	1'56"64
2	<u>清沢創一</u>	東学大	1'57"50
3	<u>斉藤和輝</u>	一橋大	1'57"78
4	<u>永井史也</u>	首都大	1'58"84
5	<u>須田遊人</u>	東大	2'01"90
6	<u>池谷裕太郎</u>	東学大	2'02"86
7	<u>酒井啓一</u>	東大	2'04"11
8	<u>足立元</u>	東農工大	2'04"48
800m 予選			
1組			
1	<u>坂井啓一</u>	東大	1'56"85 Q
3組			
3	<u>須田遊人</u>	東大	2'01"46 q
4組 (手動)			

3 川口裕貴 東大 2'06"0

1500m タイムレース決勝 (2組)			
1	<u>笠原慧</u>	東工大	3'55"81
2	<u>國友正信</u>	東工大	4'00"94
3	<u>石川宗史</u>	一橋大	4'01"99
4	<u>福井雅俊</u>	東学大	4'03"43
5	<u>大垣秀介</u>	一橋大	4'03"44
6	<u>東大貴</u>	東大	4'04"30
7	<u>今井明士</u>	首都大	4'07"95
8	<u>磯田秀弥</u>	東学大	4'08"60
9	<u>池田剛志</u>	東大	4'09"53
18	<u>石川恭平</u>	東大	4'28"40

5000m 決勝			
1	<u>山田竜也</u>	東大	15'13"49
2	<u>大垣秀介</u>	一橋大	15'16"64
3	<u>宮野健司</u>	東大	15'17"86
4	<u>東大貴</u>	東大	15'18"61
5	<u>森田雄祐</u>	一橋大	15'21"82
6	<u>山口貴史</u>	東学大	15'29"24
7	<u>田澤博幸</u>	首都大	15'39"18
8	<u>工藤光</u>	首都大	15'44"80

110mH タイムレース決勝 (2組、+0.0,+0.0)

1	<u>酒谷彰一</u>	東大	15"19
2	<u>志田望</u>	東学大	15"49
3	<u>今野拓也</u>	東学大	15"52
4	<u>橋本拓哉</u>	首都大	15"67
5	<u>ラッシュ恵</u>	一橋大	15"74
6	<u>中村卓磨</u>	電通大	16"12
7	<u>田村伸行</u>	電通大	16"17
8	<u>江間輝裕</u>	東大	16"28

400mH タイムレース決勝 (2組)

1	<u>小金沢篤</u>	東学大	53"00
2	<u>長島貴之</u>	東学大	53"28
5	<u>田村伸行</u>	電通大	54"57
4	<u>松本和裕</u>	東学大	57"92
5	<u>伴正薫</u>	東外大	57"13
6	<u>赤木裕</u>	東大	57"91
7	<u>伊東成晃</u>	東工大	58"04

8 江間輝裕 東大 58"07

4 × 100mR タイムレース決勝 (2組)		
1	東学大	42"31
2	電通大	42"77
3	<u>東大</u>	42"84
	(中嶋-都井-増本-西田)	
3	一橋大	42"84(着差なし)
5	東工大	43"06
6	東医歯大	43"93
7	農工大	45"37
8	東外大	46"34

4 × 400mR タイムレース決勝 (2組)		
1	東学大	3'22"04
2	東工大	3'22"26
3	電通大	3'23"36
4	<u>東大</u>	3'26"01
	(川村-坂井-高木-原)	
5	一橋大	3'26"24
6	首都大	3'29"12
7	外語大	3'31"79
8	東農工大	3'37"17

走高跳決勝			
1	<u>松山直輝</u>	東学大	2m05(NGR)
2	武井泰宏	首都大	1m95
3	石川順章	一橋大	1m95
4	岩科伶	東学大	1m80
5	坂本智	東大	1m70
5	三上天顕	東外大	1m70
7	<u>荒井博貴</u>	東大	1m65
7	谷村健宏	東学大	1m65

棒高跳決勝			
1	谷優樹	首都大	4m20
2	<u>土居富裕</u>	東大	3m90
3	谷村健宏	東学大	3m80
4	岩科伶	東学大	3m60
5	小森一真	一橋大	3m50
6	<u>原湖楠</u>	東大	3m40
7	<u>持永新</u>	東大	3m40

走幅跳決勝			
1	<u>西田昂広</u>	東大	6m83(+0.1)
2	小沢順	一橋大	6m50(+0.0)
3	疋島大彰	首都大	6m12(+0.0)
4	高見将則	東工大	6m10(+0.0)
5	押尾晴樹	東工大	6m10(+0.4)
6	鈴木楓太	一橋大	6m09(-0.2)
7	小池俊起	首都大	6m07(+0.2)
8	熊田吾一	東学大	6m06(-1.2)
-	<u>廣瀬彬</u>	東大	NM

三段跳決勝			
1	<u>廣瀬彬</u>	東大	13m88(+0.0)
2	<u>西田昂広</u>	東大	13m84(-0.5)
3	横山巧機	東学大	13m50(+0.0)
4	高見将則	東工大	13m39(+0.0)
5	<u>定金駿介</u>	東大	13m13(+0.2)
6	武井泰宏	首都大	13m07(+0.2)
7	柏倉省吾	東工大	12m90(-0.4)
8	谷村健宏	東学大	12m80(-0.8)

やり投決勝			
1	<u>谷彰一郎</u>	東大	60m30(NGR)
2	井上直紀	東学大	59m40(NGR)
3	重光成一郎	一橋大	55m12
4	木全由一	東外大	48m57
5	小島聡	東学大	46m91
6	品田昌希	首都大	44m85
7	中西俊紀	東学大	43m45
8	佐藤誠裕	電通大	42m45
9	<u>持永新</u>	東大	39m84
12	<u>原湖楠</u>	東大	35m27

砲丸投決勝			
1	井上直紀	東学大	11m10
2	持永新	東大	10m71
3	保浦修裕	東医歯大	9m64
4	疋島大彰	首都大	9m60
5	<u>寺島孝明</u>	東大	9m31
6	秋山綱紀	東工大	9m27
7	三瓶佑太郎	東外大	9m20

8	小島聡	東学大	8m92
11	平山蒼太	東大	7m79
円盤投決勝			
1	小島聡	東学大	36m14(NGR)
2	井上直紀	東学大	32m86
3	岩崎美秋	東外大	32m71
4	持永新	東大	31m98
5	保浦修裕	東医歯大	31m21
6	谷彰一郎	東大	29m04
7	三瓶祐太郎	東外大	25m29
8	木全由一	東外大	23m46
10	片山卓也	東大	21m41

トラック順位		
1	東学大	91
2	東工大	61
3	東大	60.5

フィールド順位		
1	東大	71
2	東学大	70.5
3	首都大	34

総合順位		
1	東学大	161.5
2	東大	131.5
3	一橋大	81.5

女子の部

100m 決勝 (+0.1)			
1	川口夢加	東学大	12"20(NGR)
2	五味未菜子	東学大	12"53
3	劔持由莉香	首都大	12"55
4	丸山智子	首都大	13"03
5	清水蘭	東大	13"29
6	吉田修子	東農工大	13"48
7	吹野恵子	東医歯大	13"54
8	高山花子	東大	13"67

100m 予選			
1組 (+0.0)			
3	清水蘭	東大	13"59 Q
2組 (+0.2)			
4	高山花子	東大	13"87 q

400m タイムレース決勝 (2組)			
1	川口夢加	東学大	59"99
2	日下桃子	東大	62"37
3	堀越彩香	東大	63"11
4	遠藤裕希	東学大	64"98
5	斎藤佑子	東外大	65"06
6	吉田修子	東農工大	65"51
7	小林美希	東外大	65"71
8	見原果林	首農工大	65"87

800m 決勝			
1	土井友里永	東学大	2'17"36
2	広江早紀	東学大	2'18"57
3	小林美希	東外大	2'29"78
4	見原果林	東農工大	2'29"81
5	前田恵	東農工大	2'32"04
6	浜松由莉	東大	2'32"08
7	松尾はるか	東医歯大	2'32"84
8	鈴木恵美里	東大	2'41"51

3000m 決勝			
1	田島香織	東学大	10'12"06
2	松尾はるか	東医歯大	11'23"66
3	山崎佐織	東学大	11'24"72
4	奥田麗子	一橋大	11'55"99
5	杉浦奈美	東大	11'40"44
6	高橋真理	首都大	12'11"03
7	立岡美夏子	東大	12'22"35
8	喜多友美	お茶大	12'36"85

4 × 100mR 決勝		
1	東学大	48"43
2	東大	52"68
(高山-清水-楠木-日下)		

3	東外大	53"83
4	農工大	54"17
5	東医歯大	55"19

走幅跳決勝

1	古口夕貴	東学大	5m31(-0.3)
2	廣川美佐紀	東学大	4m98(-0.2)
3	丸山智子	首都大	4m76(-1.7)
4	高山花子	東大	4m74(-1.2)
5	手塚友喜	農工大	4m58(+0.5)
6	安達郁恵	東外大	4m56(-0.1)
7	高木麻衣	首都大	4m55(+0.0)
8	野村優里	東外大	4m28(+0.1)
11	野崎莉代	東大	3m55(-0.1)

やり投決勝

1	岡野愛美	東学大	37m22(NGR)
2	佐藤祥	東学大	34m32
3	原田尚美	首都大	23m52
4	楠木千尋	東大	22m92
5	安達郁恵	東外大	18m50
6	小島美咲	お茶大	17m81
7	高橋翠	東大	15m15

トラック順位

1	東学大	65
2	東大	35
3	東農工大	26

フィールド順位

1	東学大	30
2	首都大	14
3	東大	12

総合順位

1	東学大	95
2	東大	47
3	東農工大	30

3 2009年度部内5傑 2009.5.31

男子 100m

1	都井紘	(4年)	11"22(+0.0)	5.31
2	春日慶輝	(2年)	11"23(-0.3)	4.5
3	中嶋毅彰	(4年)	11"42(+0.2)	5.31
4	拙島一樹	(2年)	11"61(-0.3)	5.31
5	定金駿介	(3年)	11"68(-0.2)	5.31

男子 200m

1	増本健太郎	(3年)	22"99(+0.0)	5.31
2	都井紘	(4年)	23"70(-0.5)	5.6
3	水上雄太	(3年)	24"14(-0.4)	5.31

男子 400m

1	大澤渉	(1年)	51"35	5.2
2	坂井啓一	(4年)	51"47	5.6
3	川村知正	(4年)	51"57	5.2
4	原湖楠	(3年)	52"08	5.2
5	赤木裕	(3年)	52"13	5.2

男子 800m

1	坂井啓一	(4年)	1'56"85	5.31
2	渡邊拓也	(3年)	1'57"18	5.31
3	須田遊人	(4年)	2'01"46	5.31
4	川口祐貴	(4年)	2'01"94	5.6
5	木内久雄	(3年)	2'02"30	5.31

男子 1500m

1	東大貴	(2年)	4'04"30	5.31
2	山田竜也	(2年)	4'05"36	4.5
3	池田剛志	(2年)	4'09"18	5.6
4	石川恭平	(4年)	4'17"53	5.3
5	木内久雄	(3年)	4'20"60	5.6

男子 5000m

1	竹俣直道	(3年)	14'45"00	4.5
2	山田竜也	(2年)	15'03"08	5.3
3	宮野健司	(2年)	15'15"92	4.5
4	東大貴	(2年)	15'18"61	5.31
5	山崎貴裕	(4年)	15'30"26	5.31

男子 ハーフマラソン

1	山田健太郎	(4年)	1:11'06	5.24
2	宮野健司	(2年)	1:12'49	4.12
3	中島圭一	(3年)	1:16'11	4.12

男子 110mH

1	酒谷彰一 (3年)	15"19(+0.0)	5.31
2	増本健太郎 (3年)	15"96(-0.2)	5.2
3	江間輝裕 (3年)	16"28(+0.0)	5.31
4	原湖楠 (3年)	19"21(+0.1)	5.3

男子 400mH

1	赤木裕 (3年)	57"06	5.6
2	高木海平 (2年)	57"07	5.2
2	上松祐太 (1年)	57"07	5.23
4	江間輝裕 (3年)	58"07	5.31
5	増本健太郎 (3年)	58"24	5.6

男子 3000mSC

1	山崎貴裕 (4年)	9'58"81	5.3
2	野村圭吾 (4年)	10'05"02	4.5
3	庄司健太 (3年)	10'14"09	4.5
4	池田剛志 (2年)	10'19"11	5.3
5	斉藤駿也 (3年)	10'39"66	5.3

男子 10000mW

1	早川晃司 (3年)	51'26"60	5.17
2	北沢太郎 (5年)	52'26"73	5.17

男子 走幅跳

1	西田昂広 (3年)	6m83(+0.1)	5.31
2	廣瀬彬 (4年)	6m44(+0.3)	4.5
3	浅沼達也 (4年)	5m90(+0.0)	5.31
4	原湖楠 (3年)	5m79(+0.1)	5.2
5	定金駿介 (3年)	5m66	5.31

男子 三段跳

1	廣瀬彬 (4年)	14m38(+1.0)	5.16
2	西田昂広 (3年)	13m84(-0.5)	5.31
3	定金駿介 (3年)	13m23(+1.0)	4.5

男子 走高跳

1	坂本智 (3年)	1m70	5.31
2	荒井博貴 (4年)	1m65	5.31
3	原湖楠 (3年)	1m40	5.2

男子 棒高跳

1	土居富裕 (2年)	3m90	5.31
2	原湖楠 (3年)	3m40	5.31
3	黄晓南 (3年)	3m30	5.31

男子 砲丸投

1	原湖楠 (3年)	9m38	5.2
2	寺島孝明 (4年)	9m31	5.31
3	平山蒼太 (1年)	7m79	5.31

男子 円盤投

1	谷彰一郎 (3年)	29m48	5.24
2	原湖楠 (3年)	27m44	4.5
3	片山卓也 (1年)	21m41	5.31

男子 ハンマー投

1	寺島孝明 (4年)	40m77	5.3
---	-----------	-------	-----

男子 やり投

1	谷彰一郎 (4年)	62m59	5.17
2	千葉伸宏 (3年)	52m55	4.5
3	原湖楠 (3年)	36m20	5.3

男子 十種競技

1	原湖楠 (3年)	4969点	5.2-3
---	----------	-------	-------

女子 100m

1	清水蘭 (4年)	13"29(+0.1)	5.31
2	高山花子 (3年)	13"67(+0.1)	5.31
3	久保木結 (1年)	13"92(+0.0)	5.31
4	大久保渥子 (4年)	14"12(+0.0)	5.4
5	日下桃子 (4年)	14"22(-0.3)	5.6

女子 400m

1	日下桃子 (4年)	1'00"65	5.31
---	-----------	---------	------

女子 800m

1	日下桃子 (4年)	2'20"95	5.2
2	浜松由莉 (1年)	2'32"08	5.31
3	鈴木恵美里 (2年)	2'41"51	5.31

女子 3000m

1	杉浦奈美 (1年)	11'40"44	5.31
2	立岡美夏子 (1年)	12'22"35	5.31

女子 110mH

1	久保木結 (1年)	16"00(+0.2)	5.31
---	-----------	-------------	------

女子 走幅跳

1	高山花子 (3年)	4m74(-1.2)	5.31
2	大久保渥子 (4年)	3m88(-1.6)	5.31

女子 砲丸投

1	楠木千尋 (4年)	8m20	4.5
---	-----------	------	-----

女子 やり投

1	楠木千尋 (4年)	22m92	5.31
---	-----------	-------	------

女子 ハンマー投

1	楠木千尋 (4年)	27m05	5.17
---	-----------	-------	------

4 自己記録更新者一覧 2009.4.6 ~ 5.31

5/2 順大記録会

5000m 中島圭一(3年) 16'31"53

5/2-3 国士館大記録会

400m 原湖楠(3年) 52"08
 400m 川村知正(4年) 51"57
 400mH 増本健太郎(3年) 58"24
 走幅跳 原湖楠(3年) 5m79(+0.1)
 十種競技 原湖楠(3年) 4969

5/3 東京選手権

400m 大澤渉(1年) 51"35
 110mH 持永新(M2) 16"71
 ハンマー投 寺島孝明(4年) 40m77

5/3 平成国際大記録会

3000mSC 斉藤瞬也(3年) 10'39"66

5/3 早大長距離記録会

5000m 山田竜也(2年) 15'03"08

5/6 日大競技会

400m 浅羽太郎(3年) 53"03
 400m 渡邊拓也(3年) 52"15
 400m 坂井啓一(4年) 51"47
 110mH 増本健太郎(3年) 15"96(-0.2)

5/16-17,23-24 関東インカレ

400m 持永新(M2) 51"68
 三段跳 廣瀬彬(4年) 14m38(+1.0)
 砲丸投 持永新(M2) 11m62
 円盤投 持永新(M2) 34m88
 十種競技 持永新(M2) 5964

5/31 国公立戦(町田)

100m 高山花子(3年) 13"67(+0.1)
 100m 酒谷彰一(3年) 11"74(-0.3)
 100m 定金駿介(3年) 11"68(-0.2)
 100m 中嶋毅彰(4年) 11"42(+0.2)
 100m 都井紘(4年) 11"22(+0.0)
 200m 増本健太郎(3年) 22"99(+0.0)
 400m 日下桃子(4年) 1'00"65
 800m 鈴木恵美里(2年) 2'41"51
 800m 池田剛志(2年) 2'05"60
 800m 近藤堯之(3年) 2'02"89
 800m 木内久雄(3年) 2'02"30
 800m 坂井啓一(4年) 1'56"85
 1500m 東大貴(2年) 4'04"30
 5000m 鈴木俊輔(2年) 16'40"47
 110mH 江間輝裕(3年) 16"28(+0.0)
 110mH 酒谷彰一(3年) 15"19(+0.0)
 走高跳 荒井博貴(4年) 1m65
 走幅跳 木内久雄(3年) 5m18(-1.4)
 走幅跳 西田昂広(3年) 6m83(+0.1)
 三段跳 西田昂広(3年) 13m84(-0.5)
 棒高跳 黄晓南(3年) 3m30
 やり投 楠木千尋(4年) 22m92

5 主務より

5.1 応援OB・OG紹介

国立霞ヶ丘競技場にて行われました関東インカレ、および町田競技場にて行われました国公立戦に際し、応援に駆けつけて下さったOB、OGの皆様のご氏名を報告いたします。(敬称略)

関東インカレ

1948年卒 山崎英也
 1957年卒 藤田宏明
 1963年卒 井上尚男
 1963年卒 梅津祐良
 1964年卒 八島秀雄
 1979年卒 中谷敬二
 1983年卒 八田秀雄
 1991年卒 小野満
 1999年卒 明石顕
 2000年卒 渡辺国広
 2001年卒 新妻拓弥
 2003年卒 高梨幹生

2003年卒 橋本武
 2004年卒 田坂和彦
 2005年卒 池田大行
 2005年卒 春木洋輔
 2006年卒 田中佑貴
 2007年卒 三好信哉
 2007年卒 安田理絵
 2008年卒 小澤聡
 2008年卒 小林宗隆
 2008年卒 片山芳明
 2008年卒 月崎竜童
 2008年卒 斉藤俊
 2008年卒 倉員智瑛
 2008年卒 藤本元太
 2008年卒 松本翔
 2009年卒 大島淳
 2009年卒 尾崎翔
 2009年卒 梶井駿介
 2009年卒 門脇啓太
 2009年卒 金尾太郎
 2009年卒 千徳恒憲
 2009年卒 武安光太郎
 2009年卒 菅野雄大
 2009年卒 千徳恒憲
 2009年卒 田中裕一郎
 2009年卒 福田篤
 2009年卒 堀内敦史
 2009年卒 松本光一
 2009年卒 和田光一郎

国公立戦

1994年卒 工藤麻衣子
 2001年卒 新妻拓弥
 2003年卒 川添雄太
 2003年卒 川添祐佳
 2005年卒 藤田靖浩
 2008年卒 片山芳明
 2009年卒 松本光一

ご多忙の中、お越し下さいましたことに心よりお礼申し上げます。

(お詫び)

4月号の部便りの「応援OB・OG紹介欄」に

於きまして、記載漏れが御座いました。

六大戦

1948年卒 山崎英也様

不手際をお詫び申し上げます。大変申し訳御座いません。編集担当者、学生主務ら連携して再発防止に努めて参ります。

5.2 行事予定

OB戦 6/20(土) 駒場グラウンド
 四大戦 7/4(土) 夢の島競技場
 七大戦 7/25(土) 大井埠頭陸上競技場
 26(日) 国立競技場
 一橋戦 9/12(土) 町田市立陸上競技場
 京大戦 10/3(土) 駒場グラウンド

5.3 連絡先(慶弔等)

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長:田上静之

TEL: 03-3835-6792

(凸版印刷株式会社経営監査室)

E-mail: seishi.tanoue@toppan.co.jp

学生主務:坂井啓一

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-17-14

ファースト 203

TEL: 090-5561-4320

E-mail: shumu@uttff.org

また、ご住所の変更に限り、お手数ですが学生副務早川までお願い致します。

学生副務:早川晃司

FAX:042-247-8726

この部便りは下記 web ページでもご覧になれます

<http://www.uttff.org/record/budayori/>

部便り郵送不要の方はお手数ですが学生主務までご連絡下さい

主務 坂井啓一

文責: 柴田渥史